

# 北海道立総合研究機構 北見農業試験場年報

令和2年度

令和3年6月

地方独立行政法人北海道立総合研究機構  
農業研究本部 北見農業試験場

# 目 次

## I 概況

1	沿革	-----	1
2	位置	-----	1
3	土壌	-----	1
4	土地面積および利用区分	-----	1
5	機構	-----	2
6	職員	-----	2
7	建物	-----	4
8	新たに設置した主要施設および備品	-----	4
9	決算	-----	6

## II 作況

1	気象経過	-----	7
2	当場の作況	-----	10

## III 試験研究および地域支援活動の概要

1	研究部の概要	-----	22
1)	麦類に関する試験	-----	22
2)	畑作物に関する試験	-----	22
3)	馬鈴しょに関する試験	-----	22
4)	牧草・飼料作物に関する試験	-----	23
5)	栽培環境に関する試験	-----	23
6)	病害虫に関する試験	-----	24
7)	地域支援活動	-----	24
2	技術普及室の活動	-----	24

## IV 研究発表および普及事項

1	研究発表		
1)	研究論文	-----	27
2)	口頭発表	-----	27
3)	専門雑誌記事	-----	28
4)	著編書・資料	-----	29
5)	新聞記事	-----	29
2	普及事項		
1)	普及奨励事項	-----	30
2)	普及推進事項	-----	30
3)	指導参考事項	-----	30
4)	研究参考事項	-----	30
3	品種登録・特許申請	-----	30

## V 研究企画・場運営・広報活動

1	諸会議	-----	31
2	各種委員会	-----	31
3	刊行印刷物	-----	34
4	広報活動	-----	34
5	見学受入れ	-----	35

## VI 技術指導および研修

1	研修生の受入れ	-----	36
2	講師派遣	-----	36
3	職員研修	-----	37
4	職場研修	-----	37
5	国際交流	-----	37

## VII その他

1	技術体系化チーム	-----	38
2	オホーツク地域農業支援会議プロジェクトチーム（技術普及室・研究部）	-----	38
3	表彰・受賞	-----	38
4	行事	-----	39
5	自己点検への対応	-----	40
6	建物配置図	-----	41
7	圃場配置図	-----	42



# I 概 況

## 1 沿 革

当場は、明治40年に北海道庁立地方農事試験場北見分場（地方費）として、常呂郡野付牛村（現北見市）に設置された。翌明治41年には、北海道庁立上川農事試験場北見分場となり、さらに明治43年には、第1期北海道拓殖計画の実施に伴って国費に移管され、北海道農事試験場北見支場と改称された。その後、昭和17年には、北海道農業試験場北見支場となり、同19年には組織改正により、北海道農業試験場稚内分場が同北見支場稚内分場と改称され、当場の所管となった。また、昭和22年には、農林省札幌農事改良実験所北見試験地が場内に置かれ、はっか育種を担当した。

昭和25年に、農業試験研究機関の統廃合が行われ、北海道立農業試験場北見支場が設置された。同時に、当場の所管であった稚内分場は廃止され、また、札幌農事改良実験所北見試験地のはっか育種業務も遠軽町に新設された北海道農業試験場所管の試験地に移された。同年から専門技術員が駐在するようになった。また、昭和29年には大麦育種指定試験地の設置が決まり、女満別町（道立農試原々種農場女満別分場跡地）に試験地を置いて大麦育種を実施した。昭和31～34年には、道立農業試験場整備拡充計画の一環として市街化した北見市から現在地へ移転拡充し、昭和33年には大麦育種指定試験地も現在地へ移した。しかし、大麦栽培面積の減少により、昭和36年には小麦育種指定試験に切り替えられた。

昭和39年には、チモシー、スムーズブロムグラス育種のため牧草育種指定試験地が設置された。

昭和39年11月に、道立農業試験場の機構改革により、当支場は北海道立北見農業試験場と改称、1課7科となった。昭和43年には、技術普及部門強化のため専門技術員室が設置され、その後2～3の科名変更や係の統廃合などがあり、平成4年には、管理科および研究各科を主管する研究部長を設置するほか、畑作園芸科を再編し園芸科に、病虫害予察科を病虫害科にそれぞれ変更した。平成8年3月には、機構改革により水稻試験地を閉所、水稻に関する試験は上川農試に引き継いだ。

平成10年4月に馬鈴しょの耐病性育種を強化するため、馬鈴しょ科（馬鈴しょ育種指定試験地）が根釧農試より移転した。平成12年4月には、「道立農業試験場新研究基本計画」に基づく地域対応強化のため、研究部を作物・生産の2部制とし、専技と技術体系化チームからなる技術普及部を新設した。また、園芸科と作物科を統合し畑作園芸科に、土壌肥料科を栽培環境科に変更した。平成18年4月には、小麦科を麦類科に改称した。また、専門技術員を廃止し、主任普及指導員、主査（地域支援）を設置、総務課会計係を廃止し、主査（会計）を設置した。平成19年に創立100周年を迎え、記念事業を行った。平成22年からは、22の道立試験研究機関を統合して創設した地方独立行政法人北海道立総合研究機構に移行、グループ制を導入した。

## 2 位 置

当場の住所は、常呂郡訓子府町字弥生52番地で、北見バス訓子府駅停留所から北西へ約4kmの所にある（北緯43° 45'、東経143° 43'、海拔196m）。また旧水稻試験地は、同町若葉町99番地にあり、訓子府駅停留所から西へ約1km（海拔136m）の所にある。

## 3 土 壌

庁舎周辺の土壌は、黒ボク土あるいは多湿黒ボク土に分類される。台地上の軽石流堆積物やその二次堆積物の上に火山灰が堆積したもので、表層に腐植を多く含み、下層は堅く、排水はやや不良である。旧水稻試験地の土壌は、褐色低地土に分類される。常呂川の河川堆積物からなり、下層土は礫の多い砂土で、排水は比較的良好である。

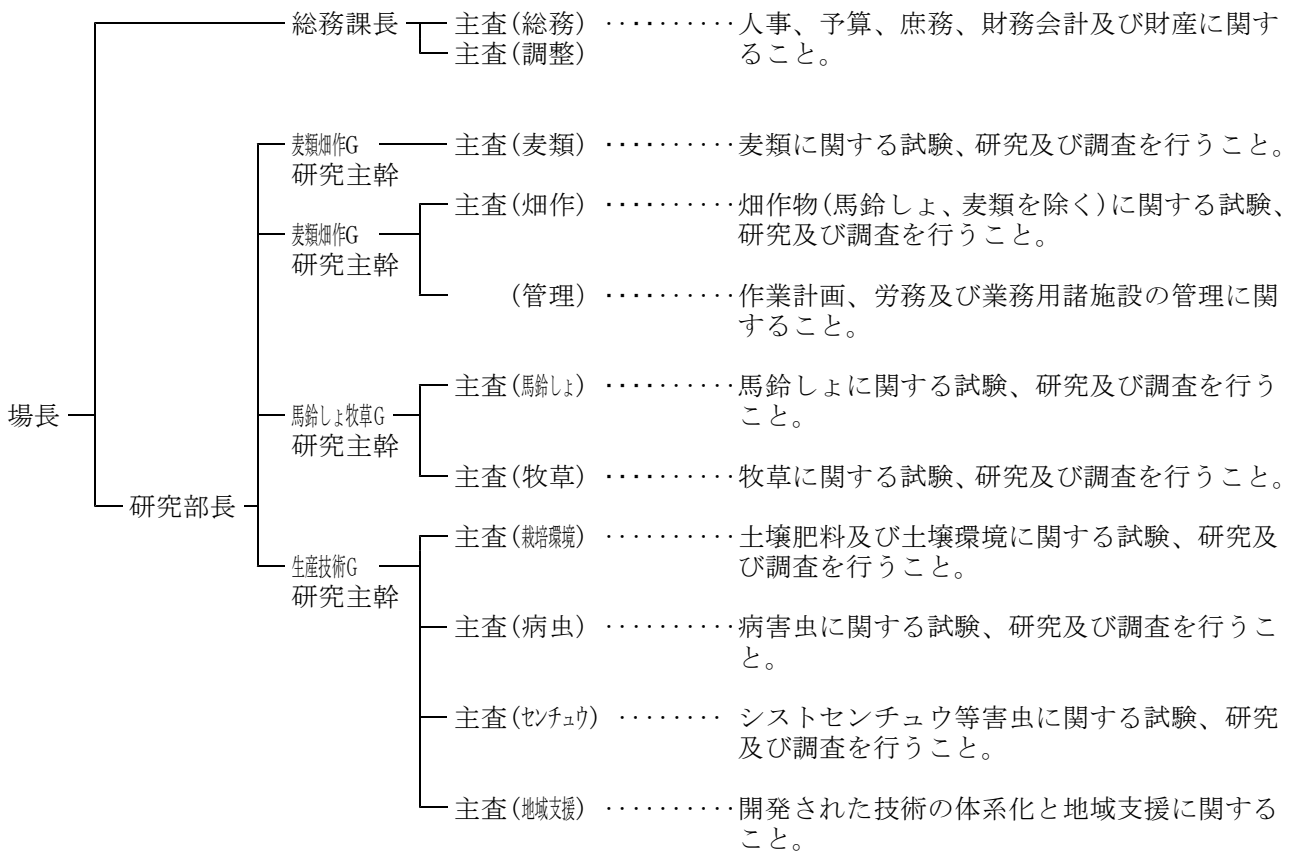
## 4 土地面積および利用区分

総面積1,557,688㎡

区 分	面 積 (㎡)
庁 舎 、 建 物 敷 地	118,564
公 宅 用 地	44,151 (道財産)
道 路 、 用 排 水 路	42,383
山 林	300,400
試 験 ほ 場 (畑)	709,705
” (隔離ほ場)	73,260
原 野 、 そ の 他	269,225

注) 上記のうち54,985㎡は旧水稻試験地

## 5 機 構



(道農政部技術普及室)

上席普及指導員 — 主任普及指導員 — 主査(普及指導) …… 普及指導員の指導及び専門技術の調査研究に  
関すること。

## 6 職 員

### (1) 職員の配置

令和3年3月31日現在

グループ別 区分	場長	部長	研究 主幹	麦 類 畑 作 G			馬 鈴 し ょ 牧 草 G		生 産 技 術 G			総務課	合 計	技 術 普 及 室
				麦 類	畑 作	管 理	馬 鈴 し ょ	牧 草	栽 環	病 虫	支 援			
研究職	1	1	4	6	2		4	3	4	4	1		30	
行政職						4						5	9	3
計	1	1	4	6	2	4	4	3	4	4	1	5	39	3

## (2) 令和3年3月31日現在員

職名	身分	氏名	職名	身分	氏名
場長	法人職員	清水 基 滋	(馬鈴しょ牧草G) 研究主幹	法人職員	平井 剛
総務課長 (総務)	北海道職員	森 光 治	主査(馬鈴しょ)	〃	藤田 涼
主査(調整)	〃	藤田 賢 司	研究主査	〃	松永 浩
専門主任	〃	松島 英 明	研究主任	〃	品田 博
技師	〃	杉本 義 則	研究職員	〃	和崎 俊 文
	〃	木村 祐 介	主任主査(牧草)	〃	佐藤 公 憲
	〃		研究主任	〃	飯田 一 司
	〃		研究主任	〃	足利 和 紀
<研究部> 研究部長 (麦類畑作G)	法人職員	江部 成 彦	(生産技術G) 研究主幹	法人職員	五十嵐 俊 成
研究主幹	〃	荒木 和 哉	主査(栽培環境)	〃	酒井 治 信
主査(麦類)	〃	鈴木 剛 全	研究主査	〃	木場 稔 児
研究主査	〃	大西 志 均	研究主任	〃	唐 星 奈
研究主任	〃	木内 均 奈	主査(病虫)	〃	小倉 玲 奈
〃	〃	足利 奈 奈	主査(センチュウ)	〃	小野寺 鶴 将
研究職員	〃	其田 達 也	研究主査	〃	池谷 美 奈
〃	〃	林 和 希	研究職員	〃	池谷 美 奈
主査(畑作)	〃	佐藤 優 美	研究職員	〃	佐々木 太 陽
研究主任	〃	池谷 暁 子	研究職員	〃	桑原 俊 典
専門主任	〃	田澤 幸 雄	(道技術普及室) 上席普及指導員	北海道職員	氏 家 俊 典
技師	〃	井口 岳 人	主任普及指導員	〃	外山 直 樹
〃	〃	中出 秀 信	主査(普及指導)	〃	小山 拓 也
〃	〃	横川 愁 斗		〃	

## (3) 転入者および採用者

職名	氏名	発令年月日	備考
総務課長	森 光 治	2. 4. 1	上川総合振興局から
研究主幹	鈴木 剛	2. 4. 1	十勝農業試験場から
主査(栽培環境)	酒井 治	2. 4. 1	酪農試験場から
主任主査(地域支援)	田中 一生	2. 4. 1	上川農業試験場から
研究職員	佐藤 優美	2. 4. 1	新規採用
研究職員	和崎 俊文	2. 4. 1	新規採用
研究職員	桑原 萌	2. 4. 1	新規採用
技師	横川 愁斗	2. 4. 1	新規採用
(道技術普及室) 主査(普及指導)	小山 拓也	2. 4. 1	上川農業改良普及センターから

## (4) 転出者および退職者

職名	氏名	発令年月日	備考
研究主幹	神野 裕 信	2. 4. 1	農業研究本部へ
主査(馬鈴しょ)	大波 正 寿	2. 4. 1	十勝農業試験場へ
主任主査(栽培環境)	奥村 理	2. 4. 1	十勝農業試験場へ
主任主査(病虫)	安岡 眞 二	2. 4. 1	道南農業試験場へ
主査(畑作園芸)	萩原 誠 司	2. 4. 1	十勝農業試験場へ
研究職員	森田 耕 一	2. 4. 1	上川農業試験場へ
技師	樫村 優	2. 4. 1	上川農業試験場へ
場長	清水 基 滋	3. 3. 31	退職
研究主査	松永 浩	3. 3. 31	退職(3. 4. 1再任用)
研究主査	池谷 美 奈 子	3. 3. 31	退職(3. 4. 1再任用)
主任主査(牧草)	佐藤 公 一	3. 3. 31	退職
技師	木村 祐 介	3. 3. 31	退職

(以降次頁)

職 名	氏 名	発令年月日	備 考
(道技術普及室) 主査(地域支援)	佐々木 康 洋	2. 4. 1	渡島農業改良普及センターへ
上席普及指導員	氏 家 俊	3. 3. 31	退職

## 7 建 物

資産名称	建築年月	構造名	延面積(m <sup>2</sup> )	備 考
庁舎	S33. 9	ブロック造	1,495.37	
てん菜分析室	S34.10	木造	99.09	
根菜貯蔵庫	S35.12	鉄筋コンクリート造	30.60	
車両庫	S45. 7	鉄骨造	140.66	
第2号ガス貯蔵庫	S46. 6	ブロック造	3.53	
豆類D型ハウス	S53. 3	鉄骨造	233.28	
園芸資材庫	S54. 4	鉄骨造	64.80	
緑体春化施設	S56.10	鉄骨造	232.00	
玉ねぎ貯蔵庫	S57. 9	ブロック造	127.00	
昆虫飼育ガラス・温室	S57.10	鉄骨造	25.92	
管理科事務所	S58.11	木造	172.53	現契約職員詰所
参観人便所	S59. 9	コンクリートブロック造	14.24	
ガラス・網室	S59.12	鉄骨造	116.91	
小農具庫及び農薬庫	S61. 1	ブロック造	136.08	
種子貯蔵庫	S61. 9	ブロック造	59.40	
園芸調査室兼温室	S63.10	コンクリートブロック造	498.96	
農機具格納庫	H 1.10	コンクリートブロック造	728.50	
牧草調査室	H 1.11	木造	243.00	
小麦生育温室	H 2.10	コンクリートブロック造	197.84	
小麦調査室及び病虫調査室	H 2.12	木造	245.52	
土壌肥料調査室	H 3.12	木造	204.00	
普通車庫	H 4. 9	鉄骨造	231.00	
トラクター車庫	H 5. 2	鉄骨造	262.50	
作物調査室	H 5. 9	木造	200.00	
共同作業室	H 5.12	鉄骨造	708.75	
病虫温室	H 7.12	鉄骨造	314.64	
牧草温室	H 8.12	鉄骨造	315.00	
農具庫(馬鈴しょ)	H10. 3	鉄骨造	199.68	
馬鈴しょ育種施設	H10. 3	鉄骨造	676.20	(実験室、温室、網室)
馬鈴しょ育種施設	H10.10	鉄骨造	346.50	(調査室、浴光催芽室)
馬鈴しょ育種施設	H10.10	鉄筋コンクリート造	204.00	(貯蔵庫)
赤カビ検定用採種ハウス1	H11.11	鉄骨造	98.00	
赤カビ検定用採種ハウス2	H11.11	鉄骨造	98.00	
作物温室	H11.12	鉄骨造	305.75	
てん菜育苗施設	H13.11	鉄骨造	216.00	
農業資材庫	H15. 1	鉄骨造	272.16	
貨物車両庫	H16.12	鉄骨造	273.60	
資料保管庫	H27. 3	木造	141.60	
合 計			9,932.61	

## 8 新たに設置した主要施設および備品

### (1) 施 設

該当なし



## (2) 備 品

名 称	形 式	金 額 (円)	配 置
ドローン 赤外線カメラ	D J I Matrice200V2.0	2,159,300	麦類畑作G
バイオマルチインキュベータ	日本医科機器 LH-80WLED-6CT	3,190,000	生産技術G
電動裁断機	マツイ CE4315	458,700	総務課
スーパーカブ 3台	ホンダ C50	741,000	馬鈴しょ牧草G
マッフル炉	アドバンテック東洋 FUL220FB	270,600	麦類畑作G
ガス給湯器	リンナイ RUS-V53YTK	150,920	馬鈴しょ牧草G
保管庫	アイリスチトセ HTS-43DG	121,220	麦類畑作G
ジアイーノ	パナソニック F-MV2100	134,200	麦類畑作G
上皿天びん	メトラートレド PL1502E	212,080	麦類畑作G
ノートPC 5台	ユニットコム	523,000	総務課
冷凍機付インキュベータ3台	PHC MIR-254S-PJ	1,361,250	生産技術G
デジタル貫入式土壌硬度計	大起 DIK-5532	497,310	馬鈴しょ牧草G
10連式マグネチックスターラー	アズワン 1-3099-01	227,700	生産技術G
上皿天秤	メトラー MS8001TS	206,800	馬鈴しょ牧草G
分析天秤	メトラー ME204T	226,710	麦類畑作G
ノートPC 2台	富士通 LIFEBOOK	407,000	麦類畑作G
デジタル実容積測定装置	大起 DIK1150	499,400	生産技術G
温水高圧洗浄機	岡常 MR30-2	353,100	麦類畑作G
バインダー 2台	ヤンマー BE214VDW	880,000	麦類畑作G
アクセスポイント 5台	バッファロー WAPM-1266WDPRA	990,000	総務課
管理機	ヤンマー YK300FP	150,700	麦類畑作G
デスクトップPC	DELL	184,800	麦類畑作G
ストーブ	トヨトミ FRV3602	109,340	総務課
貨物自動車	三菱ふそう キャンター	6,167,980	総務課
スーパーハウス	ナガワ H6	990,000	総務課
油圧プレス	マサダ AHP-35	330,000	麦類畑作G
カラーメーター	AGTRON M-SERISE3	3,498,000	馬鈴しょ牧草G
卓上型蛍光X線分析装置	堀場製作所 MESA-50	6,050,000	馬鈴しょ牧草G
グルトマチックシステム	P e r t e n GM2000	5,170,000	麦類畑作G
温水高圧洗浄機	岡常 MR-50-2	350,000	麦類畑作G
トレーラー 2台	S O R E X NF-1	704,000	麦類畑作G
防鹿フェンス		1,965,095	麦類畑作G
冷凍冷蔵庫	パナソニック 400L	209,000	麦類畑作G
ホームタンク	サンダイヤ KS1-399SZ	193,160	麦類畑作G

## 9 決 算（支出額）

（単位：円）

科 目	予 算 額	支 出 済 額	残 額	備 考
戦 略 研 究 費	0	0	0	
重 点 研 究 費	0	0	0	
職 員 研 究 奨 励 費	0	0	0	
経 常 研 究 費	19,499,000	18,399,431	1,099,569	
依 頼 試 験 費	0	0	0	
研 究 開 発 推 進 費	0	0	0	
技 術 普 及 指 導 費	222,000	222,000	0	
研 究 用 備 品 整 備 費	9,357,980	3,357,980	0	
維 持 管 理 経 費（研究）	725,000	725,000	0	
研 究 用 備 品 整 備 費（積立金）	0	0	0	
維 持 管 理 経 費（一般）	26,559,000	25,845,062	713,938	
研 究 関 連 維 持 管 理 経 費	1,096,000	1,096,000	0	
知 的 財 産 経 費	500,000	500,000	0	
運 営 経 費	37,693,000	36,170,457	1,522,543	
共 同 研 究 費	8,500,000	8,500,000	0	
国 庫 受 託 研 究 費	2,620,000	2,410,000	210,000	
道 受 託 研 究 費	3,420,000	3,419,953	47	
そ の 他 受 託 研 究 費	74,853,000	74,699,682	153,318	
施 設 整 備 費 補 助 金	14,718,000	14,718,000	0	
施 設 整 備 費（繰越積立金）	37,605,000	37,604,358	642	
合 計	237,367,980	233,667,923	3,700,057	

※ 人件費（研究職員費・派遣職員費・準職員費）を除く。

## Ⅱ 作 況

### 1. 気象経過

#### (1) 融雪期以降の経過

4月：平均気温は上旬が平年並み、中旬・下旬はともに低かった。月平均気温は3.2℃で平年よりやや低かった(-1.5℃)。降水量は上旬が平年より極めて多く、中旬は少なく、下旬は平年並で、月合計は84.0mmで平年より多かった。日照時間は上旬が少なく、中旬は平年並、下旬はやや少なく、月合計は156.60時間で平年並であった。

5月：平均気温は上旬が平年より極めて高く、中旬は低く、下旬は平年並であった。月平均気温は11.4℃で平年並であった(+0.5℃)。降水量は上旬が少なく、中旬が極めて多く、下旬は平年並、月合計は67.0mmで平年よりやや多かった。日照時間は上旬・中旬が平年並、下旬はやや多く、合計は197.3時間で平年並であった。

6月：平均気温は上旬・中旬は平年より高く、下旬は低かった。月平均気温は15.9℃で平年よりやや高かった(+0.9℃)。降水量は上旬が平年並、中旬はやや少なく、下旬はやや多く、月合計は78.0mmで平年並であった。日照時間は上旬が平年並、中旬はやや少なく、下旬は少なく、月合計は114.9時間でやや少なかった。

7月：平均気温は上旬が平年よりやや高く、中旬がやや低く、下旬は低かった。月平均気温は18.7℃で平年よりやや低かった(-0.8℃)。降水量は上旬・中旬ともに平年より少なく、下旬はやや少なく、月合計は39.0mmで平年より少なかった。日照時間は上旬・中旬が平年並、下旬はやや少なく、月合計は157.6時間で平年並であった。

8月：平均気温は上旬が平年よりやや高く、中旬は高く、下旬はやや高かった。月平均気温は21.1℃で平年よりやや高かった(+1.3℃)。降水量は上旬・中旬ともに平年より少なく、下旬はやや少なく、月合計は57.5mmで平年より少なかった。日照時間は上旬が平年並、中旬・下旬は多く、月合計は182.8時間でやや多かった。

9月：平均気温は上旬が平年より極めて高く、中旬は平年並、下旬はやや低かった。月平均気温は16.8℃で平年よりやや高かった(+0.8℃)。降水量は上旬が平年より少なく、中旬はやや少なく、下旬は極めて多く、月合計は94.0mmで平年並であった。日照時間は上旬がやや多く、中旬はやや少なく、下旬は少なく、月合計は134.0時間で平年並であった。

10月：平均気温は上旬・中旬とも平年よりやや高く、下旬は高かった。月平均気温は9.6℃で平年よりやや高かった(+1.2℃)。降水量は上旬が平年よりやや少なく、中旬は平年並、下旬は多く、月合計は86.0mmで平年並であった。日照時間は上旬がやや少なく、中旬・下旬ともに平年並で、月合計は156.3時間で平年並であった。

11月：平均気温は上旬・中旬とも平年よりやや高く、中旬までの平均気温は4.0℃で平年よりやや高かった(+1.1℃)。降水量は上旬・中旬とも少なく、中旬までの合計は15.5mmで平年より少なかった。日照時間は上旬・中旬とも平年並で、中旬までの合計は84.2時間で平年並であった。

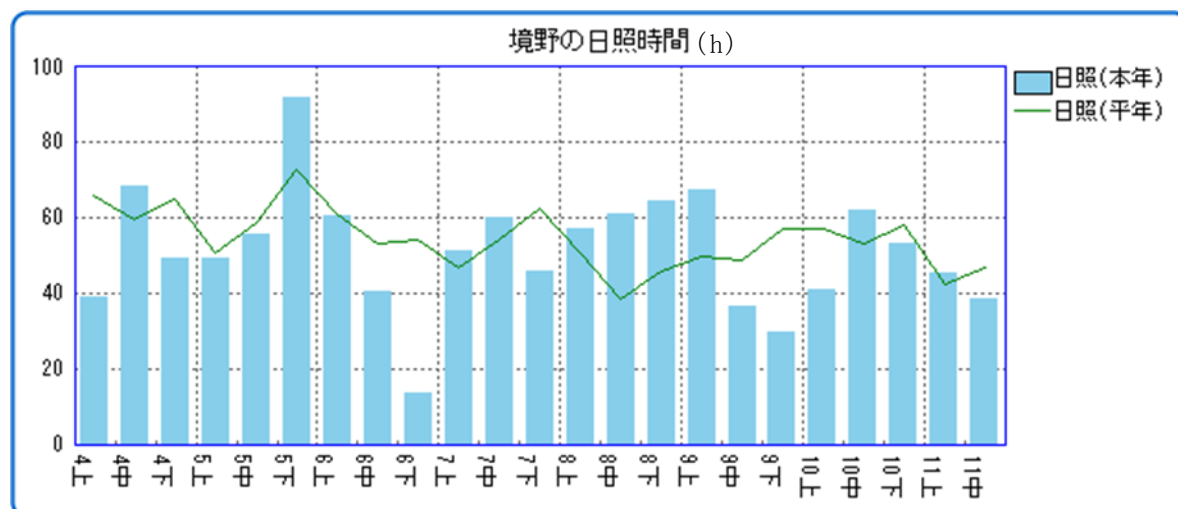
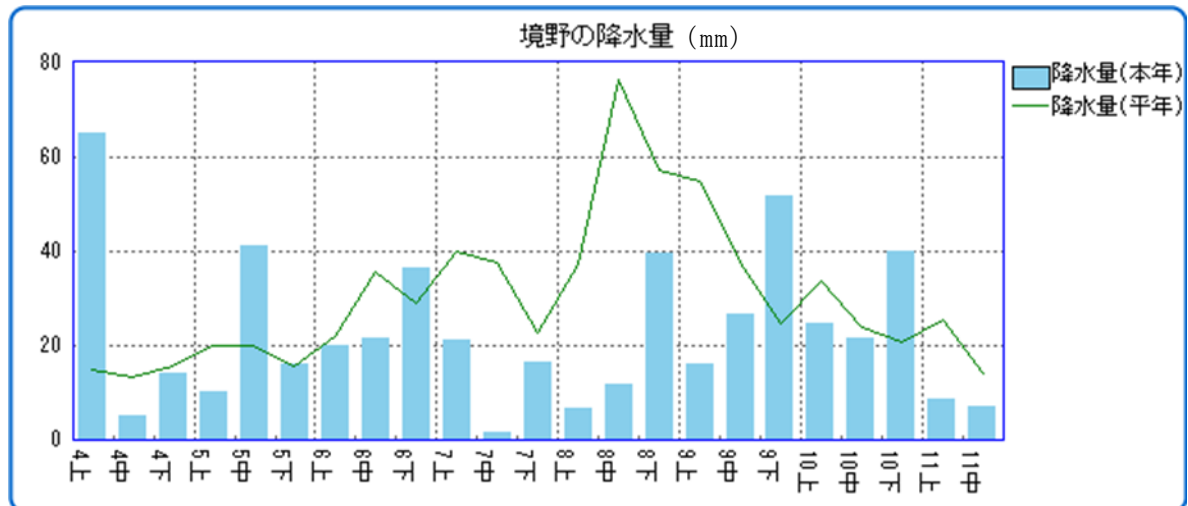
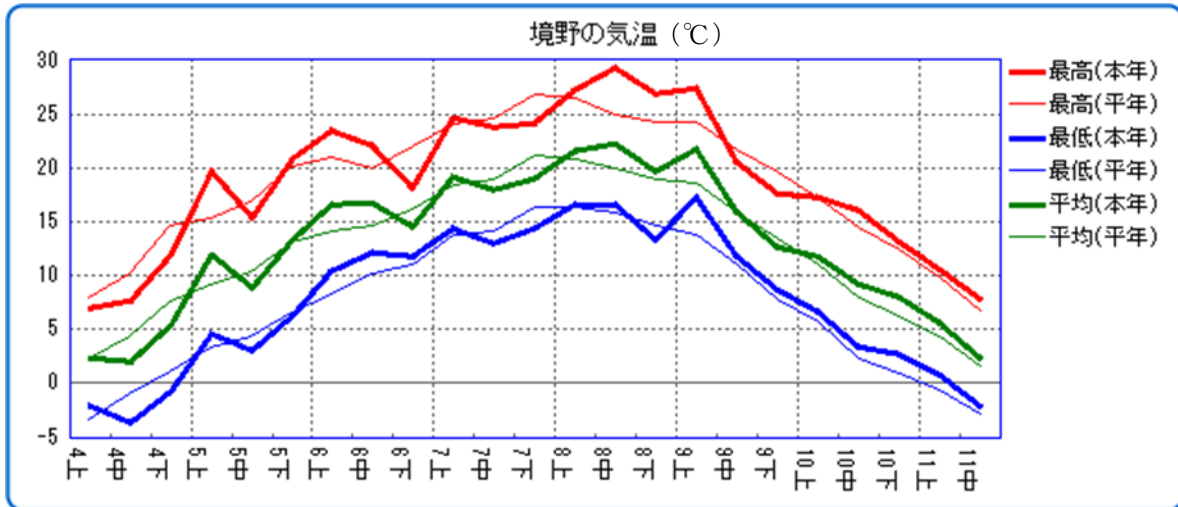
農耕期間中(5月～9月)の気温、降水量及び日照時間の推移を平年と比較すると以下のとおりである。

**気 温**：5月は平年並、6月はやや高く、7月はやや低く、8月・9月はやや高かった。この期間の日平均気温の積算値は2569.8℃であった(平年差+83.2℃、平年比103%)。

**降水量**：5月はやや多く、6月は平年並、7月、8月は少なく、9月は平年並であった。この期間の降水量の積算は335.5mmであった(平年差-192.1mm、平年比64%)。

**日照時間**：5月は平年並、6月はやや少なく、7月は平年並、8月はやや多く、9月は平年並であった。この期間の日照時間の積算は785.5時間であった(平年差-18.6時間、平年比98%)。

## 2) 気温、降水量及び日照時間の平年との比較



### 3) 気象表

年月	旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
		本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
2020年 4月	上旬	2.3	2.3	0.0	7.0	8.0	-1.0	-2.1	-3.3	1.2	65.0	14.7	50.3	38.9	65.8	-26.9
	中旬	2.0	4.3	-2.3	7.6	10.1	-2.5	-3.7	-1.0	-2.7	5.0	13.0	-8.0	68.3	59.5	8.8
	下旬	5.4	7.6	-2.2	12.0	14.6	-2.6	-0.7	1.1	-1.8	14.0	15.5	-1.5	49.4	65.0	-15.6
5月	上旬	11.9	9.1	2.8	19.6	15.3	4.3	4.6	3.3	1.3	10.0	19.9	-9.9	49.3	50.8	-1.5
	中旬	8.8	10.4	-1.6	15.4	16.9	-1.5	3.1	4.4	-1.3	41.0	19.9	21.1	55.9	58.4	-2.5
	下旬	13.3	13.1	0.2	20.9	20.2	0.7	6.2	6.5	-0.3	16.0	15.4	0.6	92.1	72.7	19.4
6月	上旬	16.5	14.2	2.3	23.5	21.0	2.5	10.4	8.3	2.1	20.0	21.8	-1.8	60.6	61.0	-0.4
	中旬	16.7	14.7	2.0	22.0	20.0	2.0	12.1	10.1	2.0	21.5	35.4	-13.9	40.8	53.0	-12.2
	下旬	14.6	16.2	-1.6	18.1	22.0	-3.9	11.8	11.1	0.7	36.5	28.8	7.7	13.5	54.4	-40.9
7月	上旬	19.2	18.4	0.8	24.7	24.0	0.7	14.4	13.8	0.6	21.0	39.7	-18.7	51.2	46.8	4.4
	中旬	18.0	19.0	-1.0	23.7	24.6	-0.9	13.0	14.2	-1.2	1.5	37.5	-36.0	60.4	54.1	6.3
	下旬	18.9	21.1	-2.2	24.1	26.8	-2.7	14.4	16.3	-1.9	16.5	22.5	-6.0	46.0	62.6	-16.6
8月	上旬	21.6	20.8	0.8	27.2	26.4	0.8	16.6	16.4	0.2	6.5	37.1	-30.6	57.3	50.5	6.8
	中旬	22.2	19.9	2.3	29.2	25.0	4.2	16.6	15.8	0.8	11.5	76.2	-64.7	61.1	38.4	22.7
	下旬	19.7	18.9	0.8	26.8	24.2	2.6	13.3	14.7	-1.4	39.5	57.2	-17.7	64.4	45.7	18.7
9月	上旬	21.8	18.6	3.2	27.4	24.3	3.1	17.2	13.8	3.4	16.0	54.6	-38.6	67.4	49.6	17.8
	中旬	15.9	15.9	0.0	20.5	21.6	-1.1	11.8	11.1	0.7	26.5	37.4	-10.9	36.7	48.7	-12.0
	下旬	12.7	13.4	-0.7	17.6	19.7	-2.1	8.6	7.8	0.8	51.5	24.5	27.0	29.9	57.3	-27.4
10月	上旬	11.7	11.1	0.6	17.3	17.2	0.1	6.7	5.7	1.0	24.5	33.6	-9.1	41.2	56.9	-15.7
	中旬	9.2	8.0	1.2	16.1	14.5	1.6	3.3	2.3	1.0	21.5	23.8	-2.3	62.0	53.2	8.8
	下旬	8.0	6.2	1.8	13.2	12.4	0.8	2.6	0.9	1.7	40.0	20.7	19.3	53.1	58.3	-5.2
11月	上旬	5.6	4.3	1.3	10.6	9.8	0.8	0.8	-0.7	1.5	8.5	25.3	-16.8	45.4	42.3	3.1
	中旬	2.4	1.6	0.8	7.8	6.8	1.0	-2.2	-2.9	0.7	7.0	13.9	-6.9	38.8	46.8	-8.0
4月		3.2	4.7	-1.5	8.8	10.9	-2.1	-2.1	-1.1	-1.0	84.0	43.1	40.9	156.6	190.2	-33.6
5月		11.4	10.9	0.5	18.7	17.5	1.2	4.7	4.8	-0.1	67.0	55.2	11.8	197.3	181.9	15.4
6月		15.9	15.0	0.9	21.2	21.0	0.2	11.5	9.8	1.7	78.0	86.0	-8.0	114.9	168.4	-53.5
7月		18.7	19.5	-0.8	24.2	25.2	-1.0	13.9	14.8	-0.9	39.0	99.6	-60.6	157.6	163.5	-5.9
8月		21.1	19.8	1.3	27.7	25.2	2.5	15.4	15.6	-0.2	57.5	170.5	-113.0	182.8	134.6	48.2
9月		16.8	16.0	0.8	21.8	21.8	0.0	12.5	10.9	1.6	94.0	116.5	-22.5	134.0	155.6	-21.6
10月		9.6	8.4	1.2	15.4	14.6	0.8	4.2	2.9	1.3	86.0	78.1	7.9	156.3	168.4	-12.1
11月(中旬まで)		4.0	2.9	1.1	9.2	8.3	0.9	-0.7	-1.8	1.1	15.5	39.2	-23.7	84.2	89.0	-4.8

注) 観測値は置戸町境野のアメダスによる(てん蔵の定期作況気象情報)。10年平均は前10か年の平均値である。

### 4) 季節表および農耕期間の平均気温、降水量、日照時間の積算値

年次	初霜 (年.月.日)	根雪始 (年.月.日)	通常の根雪終 (年.月.日)	積雪期間 (日)	降雪終 (年.月.日)	耕鋤始 (年.月.日)	晩霜 (年.月.日)	初霜 (年.月.日)	無霜期間 (日)	降雪始 (年.月.日)
本年	2019/10/7	2020/1/20	2020/3/28	69	2020/4/27	2020/4/23	2020/5/19	2020/10/16	149	2020.11.4
平年	10/14	2019/12/2	4/10	131	4/27	4/26	5/9	10.13	157	11.3
比較	-7	49	-13	-62	0	-3	10	3	-8	1

期間	項目	平均気温 (℃)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)
	5月上旬 ～ 9月下旬	本年	2569.8	335.5
	10年平均	2486.6	527.6	804.1
	比較	83.2	-192.1	-18.6

注) 農耕期間の積算値は置戸町境野のアメダスにより、それ以外は北見農試観測値である。平年値は前10か年の平均値である。

## 2 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

### 1) 秋まき小麦（令和元年9月播種）

作況：平年並

事由：播種は平年より3日遅い9月19日に行った。出芽期は平年より3日遅い9月27日であった。出芽後、10月下旬まで平均気温は平年並から高かったが、11月上旬は低く経過した。越冬前の草丈は平年並、茎数は平年を下回ったが、越冬に必要な生育量は確保できた。根雪始は平年より49日遅い1月20日、根雪終は平年より13日早い3月28日で、根雪期間は平年より62日短かった。調査圃場は融雪剤を散布したため、融雪期が根雪の観測地点より13日早い3月15日で、雪腐病の発生は少なかった。

融雪期以降、4月中下旬および5月中旬の

平均気温は低く経過したため生育は遅れ、出穂期は平年より2日遅い6月9日であった。平均気温は6月下旬が低く、7月はやや低かったことから登熟は緩やかに進み、成熟期は7月28日で平年より5日遅かった。登熟期間は平年より3日長かった。赤かび病、倒伏などの病害および障害は発生しなかった。成熟期の稈長は平年よりやや短く、穂長はやや長く、穂数が少なかった。子実重は平年比100%であった。リットル重は平年を下回り、千粒重は平年を上回った。検査等級は1等であった。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

調査項目		きたほなみ		
		本年	平年	比較
播種期	(令和1年月.日)	9.19	9.16	3
出芽期	(令和1年月.日)	9.27	9.24	3
出穂期	(令和2年月.日)	6.9	6.7	2
成熟期	(令和2年月.日)	7.28	7.23	5
草丈(cm)	(令和1年11月20日)	18.8	18.8	0.0
草丈(cm)	(令和2年5月20日)	36.6	38.1	△1.5
草丈(cm)	(令和2年6月20日)	88.9	90.2	△1.3
茎数(本/m <sup>2</sup> )	(令和1年11月20日)	1022	1301	△279
茎数(本/m <sup>2</sup> )	(令和2年5月20日)	1569	1437	132
茎数(本/m <sup>2</sup> )	(令和2年6月20日)	623	763	△140
稈長(cm)	(成熟期)	78	81	△3
穂長(cm)	(成熟期)	9.1	8.3	0.8
穂数(本/m <sup>2</sup> )	(成熟期)	575	730	△155
子実重(kg/10a)		730	732	△2
同上平年比(%)		100	100	0
リットル重(g)		793	805	△12
千粒重(g)		41.8	39.6	2.2
品質(検査等級)		1	1	-

注) 平年値は前7か年中、平成27年（最豊）、30年（最凶）を除く5か年の平均値。

2) 秋まき小麦 (令和2年9月播種)

作 況 : やや良

事 由 : 播種期は平年並の9月16日であった。  
 出芽期は平年より2日早い9月22日であった。  
 出芽後の10月および11月上旬の平均気温がや

や高く経過したため、越冬前の草丈、茎数は平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
播種期 (令和2年月.日)	9.16	9.16	0
出芽期 (令和2年月.日)	9.22	9.24	△2
草丈(cm) (令和2年11月20日)	22.9	18.8	4.1
茎数(本/㎡) (令和2年11月20日)	1758	1245	513

注) 平年値は前7か年中、平成27年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均値。

### 3) 春まき小麦

#### 作 況：不良

事 由：調査圃場は融雪剤散布により3月18日に融雪期となった。4月上旬の降水量が極めて多かったことから、播種期は平年より6日遅い4月20日となり、出芽期は平年より4～5日遅かった。5月下旬から6月中旬は気温が平年並から高く推移したため、生育の遅れはやや回復し、出穂期は平年より3～4日遅かった。7月21日の降雨によって「春よ恋」、

「はるきらり」とも倒伏が多発した。成熟期は平年より4～5日遅かったが、登熟期間は平年並であった。稈長は平年よりやや長く、穂長は平年並で、穂数は平年よりやや少なかった。子実重は平年比89～91%であった。リットル重は平年を下回り、千粒重は平年並からやや下回った。検査等級は1等であった。以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	4.20	4.14	6	4.20	4.14	6	
出芽期 (月.日)	5.4	4.29	5	5.5	5.1	4	
出穂期 (月.日)	6.23	6.20	3	6.22	6.18	4	
成熟期 (月.日)	8.9	8.5	4	8.12	8.7	5	
草丈(cm)	(5月20日)	15.4	18.6	△ 3.2	15.4	18.9	△ 3.5
	(6月20日)	66.7	71.4	△ 4.7	66.1	70.4	△ 4.3
茎数(本/㎡)	(5月20日)	377	574	△ 197	373	553	△ 180
	(6月20日)	720	798	△ 78	712	782	△ 70
稈長(cm) (7月20日)	100	95	5	95	91	4	
穂長(cm) (7月20日)	8.4	8.3	0.1	7.9	7.8	0.1	
穂数(本/㎡) (7月20日)	561	644	△ 83	581	654	△ 74	
子実重(kg/10a)	484	529	△ 46	454	509	△ 56	
同上平年比 (%)	91	100	△ 9	89	100	△ 11	
リットル重 (g)	773	805	△ 32	768	798	△ 30	
千粒重 (g)	40.2	39.3	0.8	39.4	40.9	△ 1.4	
品質 (検査等級)	1	1	-	1	1	-	

注) 平年値は前7か年中、27年(最豊)、平成29年(最凶)を除く5か年の平均。



#### 4) とうもろこし (サイレージ用)

作 況 : 良

事 由 : 播種期は平年より2日早い5月14日であった。播種後5月中旬の気温が低く推移したことから出芽期は平年より3日遅い6月1日であった。出芽後6月上中旬は平年に比べ高温で推移したものの、7月中下旬が低温傾向であったことから開花期および抽糸期は平年より1日遅かった。抽糸期後は9月上旬にかけて平均気温が高く推移したことから登

熟は順調であり、収穫期は平年並の9月24日であった。収穫時の子実の熟度は黄熟初期と平年並であった。乾物茎葉重および乾物雌穂重は平年よりやや多く、乾物総重は平年比110%、推定TDN収量は平年比108%と多収であった。総体の乾物率は平年より1.4ポイント高かった。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

調査項目	チベリウス			
	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.14	5.16	△2	
出芽期 (月.日)	6.2	5.30	3	
開花期 (月.日)	8.1	7.31	1	
抽糸期 (月.日)	8.1	7.31	1	
収穫期 (月.日)	9.24	9.24	0	
収穫時の熟度	黄熟初期	黄熟初期		
草丈 (cm)	(6月20日)	39.4	33.6	5.8
	(7月20日)	189.0	169.4	19.6
	(8月20日)	288.0	285.4	2.6
稈長 (cm)	(9月20日)	263	254	9
葉数 (枚)	(6月20日)	5.5	5.2	0.3
	(7月20日)	12.8	12.8	0.0
	(8月20日)	13.9	15.0	△1.1
生総重 (kg/10a)	6518	6210	308	
乾物茎葉重 (kg/10a)	961	865	96	
乾物雌穂重 (kg/10a)	1078	986	92	
乾物総重 (kg/10a)	2040	1851	189	
同上平年比 (%)	110	100	10	
推定TDN収量 (kg/10a)	1476	1369	107	
同上平年比 (%)	108	100	8	
総体の乾物率 (%)	31.3	29.9	1.4	
乾雌穂重割合 (%)	55.3	53.4	1.9	
有効雌穂割合 (%)	97.0	99.7	△2.7	

注1) 平年値は前7か年中、平成29年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 推定TDN収量 = 乾物茎葉重 × 0.582 + 乾物雌穂重 × 0.850。

## 5) 大豆

### 作況：やや不良

事由：播種は平年並の5月21日に行い、出芽は順調で出芽期は平年並の6月3日であった。6月下旬の低温寡照により生育は一時停滞したがその後回復し、開花始は平年より4日早かった。7月上旬から9月中旬まで少雨傾向となり、気温も8月上旬から9月上旬まで高く経過したため、高温干ばつ条件下で着莢および子実肥大が進んだ。成熟期は平年よ

り5日早く、成熟期における主茎長と分枝数は平年並で、主茎節数は平年より少なかった。着莢数は平年より多く、一莢内粒数は平年よりやや少なく、百粒重はわずかに軽かった。子実重は平年比99%だったが、屑粒率がやや高く、未熟粒等により検査等級は平年より著しく劣った。

以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。

調査項目		ユキホマレ		
		本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.21	5.21	0
出芽期	(月.日)	6.3	6.3	0
開花始	(月.日)	7.17	7.21	△ 4
成熟期	(月.日)	9.21	9.26	△ 5
主茎長 (cm)	(6月20日)	10.7	12.0	△ 1.3
	(7月20日)	54.4	50.0	4.4
	(8月20日)	66.4	64.9	1.5
	(9月20日)	65.5	65.0	0.5
	(成熟期)	64.7	65.2	△ 0.5
本葉数 (枚)	(6月20日)	1.6	0.9	0.7
	(7月20日)	7.7	7.4	0.3
主茎節数	(8月20日)	10.0	10.7	△ 0.7
	(9月20日)	9.5	10.6	△ 1.1
	(成熟期)	9.3	10.6	△ 1.3
分枝数 (本/株)	(7月20日)	5.1	4.6	0.5
	(8月20日)	5.7	5.9	△ 0.2
	(9月20日)	5.1	5.1	0.0
	(成熟期)	5.3	5.1	0.2
着莢数 (個/株)	(8月20日)	84.2	76.4	8.0
	(9月20日)	81.2	69.0	12.2
	(成熟期)	80.2	68.6	12.0
一莢内粒数		1.79	1.95	△ 0.16
子実重 (kg/10a)		348	351	△ 3
同上平年比 (%)		99	100	1
百粒重 (g)		31.5	32.6	△ 1.1
屑粒率 (%)		3.3	1.3	2.0
品質 (検査等級)		3下	2上	—

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重は水分15%換算。

3) 品質(検査等級)は造りによる検査である。

6) 小豆

作況：不良

事由：播種は平年並の5月21日に行い、出芽は順調で出芽期は平年より1日早い6月5日だった。6月下旬の低温寡照により一時的に生育は停滞したがその後回復し、開花始は平年より4日早かった。8月からの高温少雨傾向により、主茎長の伸長と開花、着莢が早い時期に停止し、莢の登熟が急激に進んだことから、成熟期は平年と比べ「サホロシヨウズ」で20日、「エリモシヨウズ」で26日早く、登熟期間は極端に短かった。両品種とも、成

熟期における分枝数は平年より多かったが、主茎長、主茎節数は平年より少なかった。「サホロシヨウズ」の着莢数はやや多かったが、一莢内粒数は平年より少なく、「エリモシヨウズ」の着莢数および一莢内粒数は平年並であった。百粒重は平年より軽く、子実重は平年比79～87%と低収であった。登熟期に降雨が少なかったため屑粒率は低く、外観品質は良好だった。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目	サホロシヨウズ			エリモシヨウズ			きたろまん(参考)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期(月.日)	5.21	5.21	0	5.21	5.21	0	5.21	5.21	0	
出芽期(月.日)	6.5	6.6	△1	6.5	6.6	△1	6.5	6.4	1	
開花始(月.日)	7.20	7.24	△4	7.21	7.25	△4	7.21	7.26	△5	
成熟期(月.日)	9.8	9.28	△20	9.8	10.4	△26	9.6	9.30	△24	
主茎長 (cm)	(6月20日)	3.9	3.9	0.0	4.7	4.0	0.7	4.7	3.8	0.9
	(7月20日)	22.2	15.6	6.6	22.9	16.2	6.7	23.2	16.4	6.8
	(8月20日)	64.3	71.4	△7.1	67.7	63.4	4.3	62.9	67.6	△4.7
	(成熟期)	68	74.8	△6.8	61.6	66.1	△4.5	58.8	70.2	△11.4
本葉数 (枚)	(6月20日)	1.3	0.4	0.9	1.2	0.4	0.8	1.3	0.3	1.0
	(7月20日)	6.4	6.3	0.1	7	6.5	0.5	6.7	6.3	0.4
主茎 節数	(8月20日)	12.4	13.1	△0.7	13.3	13.8	△0.5	11.8	13.1	△1.3
	(成熟期)	12.4	13.3	△0.9	12.9	13.7	△0.8	11.7	13	△1.3
分枝数 (本/株)	(7月20日)	4.1	1.8	2.3	4.9	1.8	3.1	3.6	1.5	2.1
	(8月20日)	6	3.6	2.4	6.8	3.3	3.5	5.2	3	2.2
	(成熟期)	5.6	3.4	2.2	6.8	3.5	3.3	5	4.1	0.9
着莢数	(8月20日)	63.6	39.6	24.0	67.7	36.6	31.1	62.9	36.2	26.7
	(成熟期)	57.5	51.5	6.0	52.6	53.1	△0.5	49.2	49.6	△0.4
一莢内粒数	5.05	5.99	△0.94	6.51	6.49	0.02	5.9	6.53	△0.63	
子実重(kg/10a)	321	371	△50	312	396	△84	316	373	△57	
同上平年比(%)	87	100		79	100		85	100		
百粒重(g)	13.7	15.9	△2.2	12.1	15.0	△2.9	13.2	16.8	△3.6	
屑粒率(%)	0.5	6.5	△6.0	0.9	7.4	△6.5	1.0	6.6	△5.6	
品質(検査等級)	2上	4中	—	2上	4上	—	3中	4中	—	

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

ただし、きたろまん(参考)は前6年(平成26～令和元年)の平均。

2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

3) 品質(検査等級)は素俵による検査である。

## 7) 菜豆

作況：やや良

事由：播種は平年並の5月21日に行い、出芽は順調で、出芽期は平年並の6月2日だった。6月下旬の低温寡照により一時的に生育は停滞したが、その後回復した。開花始は7月8日で、平年より1日早かった。8月上旬以降高温干ばつ傾向が続き、成熟期は平年より10日早い8月24日であった。成熟期における草丈は平年よ

り高く、分枝数は平年並、主茎節数と着莢数はやや多かった。一莢内粒数および百粒重は平年並で、子実重は平年比108%と多収であった。登熟期間の降雨が少なかったため色流れ粒や発芽粒が見られず、屑粒率は平年より低かったが、干ばつの影響と考えられる色ムラにより、検査等級はわずかに劣った。

以上のことから、本年の作況は「やや良」である。

調査項目	大正金時			
	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.21	5.21	0	
出芽期 (月.日)	6.2	6.2	0	
開花始 (月.日)	7.8	7.9	△ 1	
成熟期 (月.日)	8.24	9.3	△ 10	
草丈 (cm)	(6月20日)	10.4	11.5	△ 1.1
	(7月20日)	45.6	35.7	9.9
	(8月20日)	44.4	40.2	4.2
	(成熟期)	46.3	40.0	6.3
本葉数(枚)	(6月20日)	2.0	0.9	1.1
	(7月20日)	3.5	3.9	△ 0.4
主茎節数	(8月20日)	5.3	5.5	△ 0.2
	(成熟期)	5.8	5.4	0.4
分枝数(本/株)	(7月20日)	5.4	5.4	0.0
	(8月20日)	5.5	5.0	0.5
	(成熟期)	5.3	5.1	0.2
着莢数(個/株)	(8月20日)	22.0	20.0	2.0
	(成熟期)	21.3	20.1	1.2
一莢内粒数	2.76	2.75	0.01	
子実重(kg/10a)	323	299	24	
同上平年比 (%)	108	100		
百粒重 (g)	66	65.6	0.4	
屑粒率 (%)	1.2	14.0	△ 12.8	
品質 (検査等級)	3下	3中	—	

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

3) 屑粒：[下屑粒]+[色流れ粒]。

4) 品質(検査等級)は素俵による検査である。

8) ばれいしょ

作 況：やや良

事 由：植え付けは平年より3日遅い5月13日に行った。植え付けの遅れを反映し、萌芽期は平年より2日遅かったが、6月上中旬の気温が高く経過したため、茎長、茎数、開花始は両品種ともに平年並に推移した。しかし、6月下旬から7月上旬まで日照時間が少なく土壌が湿潤な状態が続いたため、茎長は両品種ともに平年を大きく上回り徒長気味であった。

「男爵薯」では、枯ちよう期は平年より1日遅い9月1日であった。株あたり上いも数は平

年を下回ったが、塊茎の肥大が良好で上いも平均重が平年を大きく上回ったため、上いも重は平年比113%であった。しかし、でん粉価は低く、中心空洞が散見された。

「コナユタカ」でも同様に、株あたり上いも数は平年より少なく、上いも平均重はかなり大きかったが、でん粉価は低かった。このため、上いも重は平年比111%だったが、でん粉重は平年並であった。

以上のことから、本年の作況は「やや良」である。

調査項目		男爵薯			コナユタカ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
植付期	(月.日)	5/13	5/10	3	5/13	5/10	3
萌芽期	(月.日)	6/1	5/30	2	6/3	6/1	2
開花始	(月.日)	6/28	6/28	0	7/3	7/4	△1
枯ちよう期	(月.日)	9/1	8/31	1	10/9	10/16	△7
茎長 (cm)	(6月20日)	23.5	23.9	△0.4	15.2	13.5	1.7
	(7月20日)	72	49	23	96	70	26
	(8月20日)	73	49	24	111	90	21
茎数 (本/株)	(6月20日)	3.7	4	△0.3	2.4	2.8	△0.4
	(7月20日)	4.8	4.3	0.5	2.4	3	△0.6
上いも重 (kg/10a)	(8月20日)	5329	4613	716	4343	3765	578
	(9月20日)	5182	4604	578	5954	5745	209
でん粉価 (%)	(8月20日)	14.4	15.6	△1.2	19.1	19.1	0.0
	(9月20日)	14.1	15.6	△1.5	20.3	21.0	△0.7
でん粉重 (kg/10a)	(9月20日)	—	—	—	1147	1153	△6
上いも数 (個/株)		8.5	11	△2.5	7.1	9.0	△1.9
上いも平均重 (g)		139	95	44	227	159	68
上いも重 (kg/10a)		5182	4604	578	7041	6333	708
同上平年比 (%)		113	100	13	111	100	11
でん粉価 (%)		14.1	15.6	△1.5	20.0	22.1	△2.1
でん粉重 (kg/10a)		—	—	—	1338	1338	0
同上平年比 (%)		—	—	—	100	100	0

注) 平年値は前7か年中、平成25年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均。

9) てんさい

作 況：やや良

事 由：移植栽培の播種は、平年より3日遅い3月25日に行った。育苗期間中の苗の生育は順調であった。移植は、平年より4日早い5月1日に行った。移植の前後に降雨があったため、活着は順調であった。直播栽培の播種は、平年より2日遅い5月7日に行なった。その後十分な降雨があり、出芽期は平年より2日早い5月16日であった。

7月上旬までの気象は総じて平年並に経過したため、移植直播ともに生育は順調であったが、7月中旬から8月中旬までは降雨が少なく、

生育は停滞した。しかし8月下旬の降雨後は生育が回復し、その後は十分な気温、降水量、日照時間であったことから、生育は順調に進んだ。

収穫は、平年より1日早い10月19日に行った。移植栽培における収穫期の根重は平年よりやや多かった（平年比105%）。また根中糖分は、8月から9月上旬にかけて著しい高温となったため低下が懸念されたが、最低気温が9月上旬を除いて平年並であったことから、収穫期には平年並となった（平年比99%）。このため、糖量は平年よりやや多かった（平年比104%）

以上のことから、本年の作況は「やや良」である。

表 その1

調査項目	移植						直播			
	リッカ			アマホマレ			リッカ (参考)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	3.25	3.22	3	3.25	3.22	3	5.7	5.5	2	
移植期 (月.日)	5.1	5.5	△ 4	5.1	5.5	△ 4	-	-	-	
出芽期 (月.日)	-	-	-	-	-	-	5.16	5.18	△ 2	
収穫期 (月.日)	10.19	10.20	△ 1	10.19	10.20	△ 1	10.19	10.20	△ 1	
草丈 (cm)	(5月20日)	8.5	6.7	1.8	8.2	6.4	1.8	-	-	-
	(6月20日)	22.3	26.5	△ 4.2	23.3	27.3	△ 4.0	19.2	13.2	6.0
	(7月20日)	54.0	53.0	1.0	55.8	52.4	3.4	52.5	46.8	5.7
	(8月20日)	63.0	58.5	4.5	61.1	58.1	3.0	66.6	60.6	6.0
	(9月20日)	64.9	60.1	4.8	63.9	60.3	3.6	67.4	62.6	4.8
生葉数 (枚)	(5月20日)	5.3	5.3	0.0	4.8	4.8	0.0	-	-	-
	(6月20日)	12.9	11.6	1.3	11.7	11.7	0.0	8.6	7.7	0.9
	(7月20日)	19.0	18.1	0.9	20.6	19.9	0.7	16.4	15.4	1.0
	(8月20日)	24.1	22.6	1.5	26.7	25.7	1.0	21.8	21.5	0.3
	(9月20日)	23.0	25.8	△ 2.8	27.7	28.9	△ 1.2	23.5	23.5	0.0
茎葉重 (g/個体)	(6月20日)	64	89	△ 25	59	94	△ 35	18	11	7
	(7月20日)	452	494	△ 42	546	533	13	408	317	91
	(8月20日)	715	739	△ 24	796	832	△ 36	732	734	△ 2
	(9月20日)	613	715	△ 102	802	847	△ 45	731	738	△ 7
根重 (g/個体)	(6月20日)	15	15	0	16	20	△ 4	1	0.7	1
	(7月20日)	220	256	△ 36	250	269	△ 19	127	110	17
	(8月20日)	730	770	△ 40	719	779	△ 60	549	572	△ 23
	(9月20日)	1092	1073	19	1116	1037	79	937	890	47
根周 (cm)	(7月20日)	19.9	21.9	△ 2.0	24.3	22.7	1.6	17.2	16.1	1.1
	(8月20日)	31.0	32.8	△ 1.8	32.0	33.7	△ 1.7	28.7	28.2	0.5
	(9月20日)	34.9	36.5	△ 1.6	36.3	38.0	△ 1.7	34.7	32.9	1.8
根中糖分 (%)	(9月20日)	16.39	16.10	0.29	16.81	16.60	0.21	16.57	15.80	0.77

表 その2

調査項目	移植						直播		
	リッカ			アマホマレ			リッカ (参考)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎葉重 (収穫期) (kg/10a)	4250	4483	△ 233	5330	5448	△ 118	4850	4879	△ 29
根重 (収穫期) (kg/10a)	8560	7675	885	6990	7132	△ 142	6840	6521	319
同上平年比 (%)	112	100	12	98	100	△ 2	105	100	5
根中糖分 (%)	17.75	18.04	△0.29	18.65	18.91	△0.26	18.02	17.96	0.06
同上平年比 (%)	98	100	△ 2	99	100	△ 1	100	100	0
糖量 (kg/10a)	1520	1382	138	1303	1345	△ 42	1232	1167	65
同上平年比 (%)	110	100	10	97	100	△ 3	106	100	6

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊), 28年(最凶)を除く5か年の平均。

### 10) 牧草 (チモシー)

#### 作況：やや不良

事由：萌芽期は平年より2日遅い4月24日であり、冬損程度は平年並であった。

1番草；出穂始、出穂期はいずれも平年より1日遅く、刈取時の草丈、出穂程度は平年並であったが、6月上旬の高温と少雨により生育がやや抑制されたため、乾物収量は平年比91%とやや少なかった。

2番草；収穫は平年より2日早い8月6日に行った。1番草収穫後は平年に比べて降水量が少なかったものの、やや冷涼で、チモシーの生育に適した気温で経過したことから、収

穫時の節間伸長程度は平年より高く、乾物収量は平年比115%と多かった。

3番草；収穫は平年より3日遅い10月6日に行った。2番草収穫後から9月上旬まで続いた高温、干ばつ傾向のため、生育が停滞した。そのため、乾物収量の平年比は62%と低かった。

1～3番草の合計乾物収量の平年比は92%と平年を下回った。

以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。

表 その1

調査項目		なつちから		
		本年	平年	比較
萌芽期	(月.日)	4.24	4.22	2
冬損程度		1.0	1.2	△0.2
被度 (%)	(5月18日)	100	100	0
	2番草再生時	100	100	0
出穂始	(月.日)	6.12	6.11	1
出穂期	(月.日)	6.16	6.15	1
出穂程度	1番草	8.0	8.0	0.0
節間伸長程度	2番草	4.5	3.7	0.8
刈取日(月.日)	1番草	6.18	6.19	△1
	2番草	8.06	8.08	△2
	3番草	10.06	10.03	3
倒伏程度	1番草	1.0	1.0	0.0

表 その2

調査項目		なつちから		
		本年	平年	比較
病害罹病程度	1番草	1.0	1.0	0.0
	2番草	2.0	2.1	△0.1
	3番草	3.0	2.9	0.1
草丈(cm)	(5月18日)	37	35	2
	(6月5日)	69	73	△4
	1番草	97	99	△2
	2番草再生時	38	38	0
	2番草	66	63	3
	3番草再生時	26	41	△15
	3番草	34	41	△7
生草収量 (kg/10a)	1番草	2,174	2,529	△355
	2番草	946	881	65
	3番草	321	508	△187
	合計	3,441	3,919	△478
乾物率(%)	1番草	24.3	23.0	1.3
	2番草	24.7	23.8	0.9
	3番草	28.3	29.0	△0.7
乾物収量 (kg/10a)	1番草	528	581	△53
	同上平年比(%)	91	100	△9
	2番草	233	203	30
	同上平年比(%)	115	100	15
	3番草	91	146	△55
	同上平年比(%)	62	100	△38
	合計	852	930	△78
同上平年比(%)	92	100	△8	

注1) 平年値は前7か年中、平成28年(最豊)、令和元年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 冬損程度は、1:無または微~9:甚。出穂程度および節間伸長程度は、1:無~9:極多。  
倒伏程度および病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。



付表1 各作物の耕種概要

作物名	一区面積 (㎡)	反復	前作物	畦幅 (cm)	株間 (cm)	一株 本数	播種 粒数 (粒/㎡)	播種量 (kg/10a)	株数 (株/10a)
1.秋まき小麦	7.2	4	緑肥大豆	30.0	条播	—	255	—	—
2.春まき小麦	6.0	4	緑肥大豆	30.0	条播	—	340	—	—
3.とうもろこし	11.2	3	緑肥えん麦	75.0	17.8	1	—	—	7,491
4.大豆	9.6	3	緑肥そば	60.0	20.0	2	—	—	8,333
5.小豆	9.6	3	緑肥そば	60.0	20.0	2	—	—	8,333
6.菜豆	9.6	3	緑肥そば	60.0	20.0	2	—	—	8,333
7.ばれいしょ	37.8	3	緑肥えん麦	75.0	30.0	1	—	—	4,444
8.てんさい	39.6	3	緑肥野生えん麦	60.0	23.8	1	—	—	7,003
9.牧草 (チモシー)	2.7	4	緑肥えん麦	30.0	条播	—	—	2.0	—

付表2 各作物の耕種概要

作物名	施肥量(kg/10a)						備考
	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	MgO	堆肥	その他	
1.秋まき小麦	6.0	18.8	7.5	3.8	—	起生期追肥 N:3.0	H27年より変更
2.春まき小麦	10.0	18.0	12.0	5.0	—		
3.とうもろこし	14.0	22.0	12.0	4.0	3,000	炭カル:150	
4.大豆	1.8	15.0	7.8	3.0	—		
5.小豆	4.0	20.0	11.2	4.0	—		
6.菜豆	4.0	20.0	11.2	4.0	—		
7.ばれいしょ	8.0	20.0	14.0	5.0	—		
8.てんさい	14.8	29.6	12.1	6.7	—		
9.牧草 (チモシー)	15.0	15.0	15.0	3.0	—	〔 造成時 炭カル:200 ダブリン:30 〕	

## Ⅲ 試験研究および地域支援活動の概要

### 1 研究部の概要

#### (1) 麦類に関する試験

麦類畑作グループ（麦類）は、秋まき小麦および春まき小麦の新品種育成やそれに係わる栽培試験、二条大麦の適応性検定試験および除草剤などの資材試験を実施している。

小麦では、「小麦品種開発事業」、「気象変動に対応した高品質で安定生産可能な道産小麦の開発促進」等の各試験研究課題により高品質で耐病性および穂発芽耐性に優れた品種の育成を進めている。「優良品種決定調査」では秋まき小麦の「北見94号」、「北見97号」、「北見96号」春まき小麦では「北見春79号」を供試し、「北見94号」は試験休止、「北見96号」、「北見97号」、「北見春79号」、「北見春82号」を試験中止とした。秋まき小麦「北見98号」、「北見99号」、春まき小麦「北見春83号」「北見春84号」を新配付系統とした。「春まき小麦の品種選定試験」ではホクレン農総研育成の「HW8号」等について適応性を検討した。

二条大麦では、「イノベーション創出強化研究推進事業（旧農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業）（課題番号28038C）」により適応性検定試験を行い、「札育8号」を試験継続とし、「札育9号」を新配布系統とした。

#### (2) 畑作物に関する試験

麦類畑作グループ（畑作）は豆類やてん菜などの畑作物の新品種育成・栽培法改善試験、除草剤などの資材試験を実施している。

豆類では、大豆系統適応性検定試験を、「畑作物の地域適応性検定試験（大豆系適相当）」として場内圃場で十系系統11系統の適応性の検定を行った。「畑作物の地域適応性検定試験（優決基本相当）」で大豆の十育系統1系統、小豆の十育系統1系統、菜豆の十育系統1系統の検定を行った。受託研究では、菜豆で「いんげんまめ「福勝」育種家種子の緊急増殖」として、金時品種「福勝」の育種家種子増殖を、中央農試遺伝資源部と共同で実施した。公募型研究では、菜豆で、「菜豆の多収・耐病性に優れた品種開発促進」を、十勝農試豆類畑作グループと共同で実施した。

てん菜の品種選定では、「てん菜輸入品種検定試験」として、民間育成の9系統を検定した。そのうち「KWS8K860」の1系統が北海道優良品種に認定された。その他、継続検討が3系統、廃棄が4系統である。なお、「KWS8K879」の除草剤抵抗性系統については、普及見込地域において除草剤試験結果を次年度に実施することとした。

てん菜の育成系統では、「テンサイ育成系統特性評価」として、北農研育成の1系統において、オホーツク地域における系統適応性検定、そう根病抵抗性検定を行った。

直播栽培試験では、「北海道の製糖産業を支えるテンサイ直播適性の解明と選抜実証 1-(1)直播栽培における適性要因の解明」において、農研機構北海道農業研究センター、十勝農試、北海道糖業、日本甜菜製糖と共同で実施した。

#### (3) ばれいしょに関する試験

馬鈴しょ牧草グループ（馬鈴しょ）は、でん粉原料用、加工用等の新品種育成並びに栽培試験を実施している。

ばれいしょ新品種育成に関する試験は「馬鈴しょ品種開発事業Ⅱ」により、安定多収な品種の育成を進めている。また、「北海道畑作で新たに発生が認められた難防除病害虫ジャガイモシロシストセンチュウおよびビート西部萎黄ウイルスに対する抵抗性品種育成のための先導的技術開発」ではジャガイモシロシストセンチュウ抵抗性を有するでん粉原料用品種の育成、ホクレンとの共同研究課題「トヨシロ」置き換えの加工用馬鈴しょ品種の育成促進」では熟期の早い加工用品種育成の強化に取り組んでいる。

選抜効率の向上については、「でん粉原料用馬鈴しょにおける早掘り適性をもつ多収品種の開発強化」で中期世代の9月上旬収穫による早期肥大性の評価、有望系統の栽培特性および主産地適応性を評価し、普及性の高い有望系統開発を強化している。「馬鈴しょGr・P・V・Y等の抵抗性品種開発強化および特性検定試験」では育成3年目の系統について、

ジャガイモシストセンチュウ、ジャガイモYウイルス、ジャガイモシロシストセンチュウおよび海外において枯ちょう期との関連が報告されているDNAマーカーによる選抜を実施している。

品質の向上については「でん粉原料用馬鈴しょにおける高品質でん粉系統の開発促進」、「長期貯蔵向けポテトチップ用馬鈴しょ系統の開発強化」により、でん粉品質並びにチップ加工適性の優れる品種の開発促進を行っている。

耐病性の向上については「馬鈴しょそうか病抵抗性系統の開発強化」、「馬鈴しょ疫病圃場抵抗性系統の開発促進」の各試験研究課題により、前出の課題と合わせて耐病虫性（ジャガイモシストセンチュウ、そうか病、疫病、Yウイルス病）に優れる品種の開発促進を進めているとともに、特性検定試験を実施している。

「優良品種決定調査」では、生食用「北育28号」、加工用「北育29号」について検討し、「北育28号」が北海道優良品種に認定され、「北育29号」を継続検討とした。「馬鈴しょ輸入品種等選定試験」では、民間育成3系統について生産力検定並びに病害虫抵抗性検定を行い、「CP12」を試験中止、「CP13・14」を継続検討とした。

#### (4) 牧草・飼料作物に関する試験

馬鈴しょ牧草グループ（牧草）では、チモシー新品種育成試験、牧草・飼料作物の系統評価、品種比較試験、栽培試験などの資材試験を実施している。

「チモシー品種開発事業Ⅱ」では、収量性、競合力、耐倒伏性、飼料成分、耐病性などの改良を目標として、チモシー有望系統の開発に取り組んでいる。また、北海道農業研究センターが育成したアカクローバ2系統、サイレー用とうもろこし1系統のオホーツク地域での適応性検定試験を実施した。ホクレンとの共同研究「安定的なチモシー草地維持に貢献する高競合力を備えた高品質・多収品種の開発強化」では、新たな育種素材の導入と特性評価、及び広域適応性早生2系統の生産力予備検定試験を実施したほか、早生育成2系統の採種を実施した。（一社）日本草地畜産種子協

会との共同研究「広域適応性チモシー品種の開発促進」では、広域適応性早生2系統の生産力予備検定試験を実施した。民間受託試験「飼料作物品種比較試験」では、牧草3草種とサイレー用とうもろこしの品種比較試験を実施した。「寒地における飼料用トウモロコシの倒伏リスク低減技術の開発～オホーツク地域の栽植密度の評価」では、栽植密度3処理について3年目の試験を試験を行った。新資材試験は、飼料用とうもろこし除草剤2剤を検討した。

#### (5) 栽培環境に関する試験

生産技術グループ（栽培環境）は、土壌肥料（資材試験を含む）および環境保全に関する研究を実施している。

本年度は、終了課題「早期出荷に向けたたまねぎの収穫前進技術の開発」を「早期出荷に向けたたまねぎの収穫前進技術」としてとりまとめ北海道農業試験会議（成績会議）に提出し、令和二年度指導参考事項に採択された。

継続課題としては、「環境保全型有機質資源施用基準設定調査」（中央農試、上川農試、道南農試、十勝農試、酪農試と共同）、「農地土壌炭素貯留等基礎調査事業」（中央農試、上川農試、道南農試、十勝農試、酪農試と共同）、「農作物病害虫診断試験②生理障害診断試験」、「道営農業農村整備事業等に係る土壌調査」（中央農試、上川農試、道南農試、十勝農試、酪農試、花野センターと共同）、「移植たまねぎに対する肥効調節型肥料を用いた分施省略技術の確立」、「気象変動に対応した高品質で安定生産可能な道産小麦の開発促進（第2期）2）生産および品質安定に向けた病害・障害耐性と収量関連形質の選抜強化（5）栄養生理的手法と遺伝資源を活用した収量性の選抜強化」（麦畑Gと共同）、「3）栽培改善による生産および品質の安定化（1）植物成長調整剤を用いた春まき小麦『春よ恋』の高品質安定多収栽培技術の開発」（中央農試、上川農試と共同）、「移植たまねぎに対する肥効調節型肥料を用いた分施省略技術の開発」、革新的技術導入による地域支援-オホーツク管内における短節間かぼちゃ省力栽培法の実証を実施した。

本年度から新たに実施した課題は「窒素施肥適正化のためのリアルタイム土壌診断技術

の開発」(中央農試と共同)、「加工・業務用たまねぎ中生系統の特性評価」(日本農林社からの受託)である。

単年度試験として「秋まき小麦「きたほなみ」の安定生産重視型栽培法の開発・実証」(中央農試、十勝農試と共同)を実施した。

## (6) 病害虫に関する試験

生産技術グループ(病虫)は、畑作物および園芸作物の病害虫防除対策試験、馬鈴しょのそうか病、塊茎腐敗およびジャガイモシストセンチュウの抵抗性評価、農作物病害虫診断試験、新農業資材実用化試験(新農薬効果査定試験)および病害虫発生予察事業を実施している。

前年度から継続して実施した課題は、「病害虫発生予察調査」(中央農試、上川農試、道南農試、十勝農試、花野菜セと共同)、「農作物病害虫生理障害診断・緊急対策試験」(中央農試、上川農試、道南農試、十勝農試、花野菜セと共同)、「馬鈴しょ輸入品種等選定試験」(そうか病、塊茎腐敗およびジャガイモシストセンチュウ抵抗性検定、馬鈴しょ牧草G、中央農試、上川農試、十勝農試、北農研と共同)、「馬鈴しょ疫病圃場抵抗性系統の開発促進」(馬鈴しょ牧草Gと共同)、「馬鈴しょそうか病抵抗性系統の開発強化」(馬鈴しょ牧草Gと共同)、「オホーツク地方におけるでん粉原料用馬鈴しょの早期枯凋症状の原因解明と被害軽減対策の検討」、「侵入シストセンチュウ類緊急防除後の営農再開・再発防止支援技術の開発 3. Gpの再発生を防ぐ総合対策技術の開発 (2) 捕獲作物・抵抗性品種等の高度利用によるGp密度低減技術の開発」(北農研と共同)である。

また、本年度から新たに実施した課題は、「馬鈴しょGr・PVY等の抵抗性品種開発強化および特性検定試験」(馬鈴しょ牧草G、中央農試と共同)、「インファロー散布を活用した馬鈴しょ害虫の防除法の確立」(十勝農試と共同)、「加工業務用たまねぎ中生系統の作出と評価」(花野菜セ、十勝農試と共同)である。

## (7) 地域支援活動

オホーツク地域農業支援会議では、技術普及室、網走農業改良普及センター、オホーツ

ク総合振興局農務課とともに、事務局会議2回、五者会議ならびに地域関係者会議(新型コロナ蔓延防止のため書面会議)を開催し、地域ニーズの現地聞き取り4ヶ所調査・対応等を行った。

プロジェクト課題の該当は無かった。また、個別の地域要望や普及センターからの支援要請等については、研究部各グループと技術普及室が連携して対応を行った。

## 2 技術普及室の活動

### a 専門項目に関する普及センターの支援

技術的な問い合わせなどへの対応の他、普及センターからの支援要請に基づいたテーマについて対応した。

耕種(水稲・畑作・園芸)については、①水稲の栽培技術支援に関する支援(3課題)、②水稲『きたゆきもち』の高品質安定生産(もち米における胴割れ米の要因解析と発生低減・品質向上に向けた技術指導)への支援、③畑作部会研修にかかる支援、④秋まき小麦のタンパク改善に向けた取り組みの支援(4Hクラブ)、⑤種子馬鈴薯生産地帯の畑作物生産性向上、⑥でん粉原料用ばれいしょ「フリア」(Gp抵抗性品種)の栽培支援、⑦たまねぎ黒しみ症状改善に向けた取り組み、⑧ながいも優良種いもの確保(優良な原々種いもの選抜方法の習得)、⑨薬用作物の安定生産(センキュウの低収要因の解明)、⑩野菜栽培技術の向上(ブロッコリー花蕾中のカルシウム含量等調査方法に係る情報提供)、について支援した。なお、①、⑧については他担当普及室へ支援を要請した。

植物保護については、①ごぼうにおけるセンチュウ害とヤケ症の対策、②野菜の品質向上支援(だいこん栽培におけるヒメダイコンバエの効果的な防除法について)、について支援した。

経営については、①新技術導入による経営評価手法の習得、②経営データの分析・活用方法の研修、③農家経営改善支援における原価計算システム活用について、④GAP運用に向けた技術支援、について支援した。

ICTについては、①自給飼料の高品質安定化及びICTに関する技術支援(牧草地でのドローン(航空写真)を用いた除草剤散布)、②ス

マート農業技術に係る調査手法および解析手法の習得支援について支援した。なお、①、②は他担当普及室へ支援を要請した。

地域課題解決研修については、①家畜による農作業事故発生防止に向けた対策の検討、②普及活動によるスマート農業技術導入のあり方検討、について支援を行った。

畜産については、①畜産部会研修にかかる支援、②地域の核となる組織育成に向けた情報提供と支援、③肉牛農家の飼養管理技術向上（肥育牛に対する肉質診断）、④自給飼料の高品質安定化への技術支援（粗飼料の細断サイレージにおける切断長の状況別推奨値とその活用について）、⑤乳牛の飼養管理改善支援（乾乳期のモニタリング技術習得）、について支援した。なお、②、③、④、⑤は他担当普及室へ支援を要請した。

高付加価値については、①高付加価値化の評価について支援した。

人材育成については、①新任職員に対する研修、②人材育成（若手畜産担当者）に対する支援を行った。なお、②は他担当普及室へ支援を要請した。

病害虫や自然災害等の緊急事態に対する対応や突発性病害、生理障害の診断および研究要望事項のうちで既往の成果があるとされたものに対する支援など多岐にわたった。

## **b 調査研究の実施**

調査研究は3課題である。

1つ目は、「家畜管理時の農作業事故発生防止に向けた対策の検討の調査研究」である。オホーツク管内では全農作業事故のうち38.2%が「畜産」に区分されており、事故に占める割合は高い。家畜による農作業事故を減らすためには、当事者である農業者が労働安全に積極的に向き合い、事故は防げるという考え方を醸成する活動が必要である。

昨年度取り組んだ課題解決研修「家畜による農作業事故発生防止に向けた対策の検討」に引き続き、今年度は「家畜管理における労働安全向上を図る普及方法について」を支援し、昨年、研修で作成支援したリーフレットを活用し、労働安全をより広く農業者に定着させるための普及方法について検討を行った。

活動は研修メンバー全員が対応する事で広

域的な活動となった。対象は労働安全改善志向農業者や畜産GAP取得者を中心に①現状の確認、②現場での作業詳細聞き取り、③具体的改善策の検討、④検討結果の提案、⑤提案後の確認とPDCAサイクルに準じて行った。これらの活動から得られた事例やアイデアから「事故は対策して防ぐ」考え方に変化できた。また管内JAやオホーツク地区農作業安全運動推進本部と連携し広く情報発信が行えた。

これらの活動内容を情報を発信するため「家畜労働安全のすすめ」と題した資料作成を支援した。内容は①そもそも人はいつ失敗するのか、②調査で分かった人それぞれの危ないこと、③では、何をすべきなのか？できる事を考える、④データから見る、農作業事故の実際、⑤データから見る、牛舎作業中の事故、⑥対策を知り、対策する、⑦安全を購入するの内容で構成した。この資料は農業改良普及センターのホームページからダウンロードする形とし、資料の活用を促すPRリーフレットを作成し、管内各関係機関や農業者に提供される。この活動は地域課題を解決するための普及活動手法として参考となる。

2つ目は、「でんぷん原料用ばれいしょのジャガイモシロシストセンチウ抵抗性品種「フリア」の栽培法の検討の調査研究」である。令和3年産からジャガイモシロシストセンチウ抵抗性品種「フリア」の作付けが拡大するため、栽培体系の構築に向けて取り組んだ。「フリア」は、1個重が軽く、でんぷん価は低い、上いも重が多いことがでん粉収量に有利である。しかし、収穫時に塊茎のストロン離れが悪く、収穫のロスと野良いもの増加が懸念されていた。改善策として、基肥の増肥、開化期追肥などの窒素増肥、疎植により1個重を高めることを対策とした。

茎葉枯凋は普通掘りの収穫時でも完全枯凋に至らず、引き抜きによる塊茎のストロン離れは、小玉ほど残存していた。施肥体系は、対照区の基肥 - 追肥、10-4kg/10aに対して、8-4kg/10aの上いも数が多くなりでん粉収量が高まった。栽植密度に関しては、疎植により1個重の増加を期待したが、対照区と同等だった。でん粉収量は、いも数が多くなった密植が有利となった。

本年度は、8月～9月が高温少雨傾向のため、

期待どおりの塊茎肥大には至らず、株数を確保した密植が有利になった。

施肥体系に関しては、ほ場の熱水抽出性窒素に応じた窒素施肥量の決定が重要と思われた。

なお、ストロン離れの悪さの改善に向けては、これまでと同様1個重の増加を図るとともに、初期生育の促進による生育期間の確保やでん粉原料用ばれいしょでは行われていない枯凋処理の検討も必要と思われた。

3つ目は、「ヒメダイコンバエの効果的な防除法検討に関する調査研究」である。ダイコンは、JA中標津100ha、JA標茶180haと根釧地域の野菜の主力品目である。アブラナ科野菜に寄生するヒメダイコンバエは、主に根部を加害し、ダイコンに甚大な被害をもたらす。平成24年から中標津のダイコンほ場で発生確認されて以来、釧路地域にも被害が及んでおり、ダイコンの効果的な防除対策確立が喫緊の課題となっている。

課題解決に向けて、①発消長調査、②早期すき込みの励行(耕種的対策)、③効果的な薬剤の探索について、釧路農業改良普及センターおよび根室農業普及センターと検討した。①発消長調査～現地での黄色水盤による発消長調査から、本年は6/10(釧路)、5/21(中標津)で初発を確認。過去の結果からも概ね5月下旬から6月上旬の初発となることが確認された。黄色水盤による発生のピークは、おおよそ年3回で、5月下旬～6月上旬・7月中旬～下旬・9月上旬～中旬であった。一方で、発生は長期間にわたると続くため、防除対策を難しくしている。

②早期すき込みの励行(耕種的対策)～ほ場にあるダイコン残渣に産卵し発生量を拡大していることから、釧路農業改良普及センターにおいて早期すき込みを励行している。発生が少ない農家では、1作期ごとに収穫後速やかなすき込みが実施されていた。

③効果的な薬剤の探索～釧路農業改良普及センターにて、6つの薬剤試験が実施され、効果の高い薬剤を確認できた。

オホーツク管内でも発生が確認され、被害ほ場が散見されていることから、引き続き「効果的な薬剤の探索」「発消長の確認」「早期すき込みの励行」が重要となる。

### c 地域農業支援会議活動

オホーツク地域農業支援会議の活動は、要望のあった8課題に対して、現地聞き取り調査を4カ所で行った。五者会議・地域関係者会議は新型コロナ感染拡大防止の観点から書面会議となった。

技術体系化チームの活動はなかった。

### d 農業試験場における普及指導員の研修実施

本年度の高度専門技術研修(畑作)並びに(植物保護)を北見農試では実施する予定だったが、新型コロナの感染拡大防止の観点から、中止となった。

## IV 研究発表および普及事項

### 1 研究発表

#### 1) 研究論文

- K. Fujino, M. Obara, H. Kiuchi, H. Shinada, T. Nishimura, T. Maekawa, Y. Hirayama. Role of the rice blast resistance gene Pi-cd in rice (*Oryza sativa*) breeding programmes. *Plant Breed* 139:845-852(2020).
- Tetsuo Tamada・Hirokatsu Uchino・Toshimi Kusume・Minako Iketani-Saito・Sotaro Chiba・Ida Bagus Andika・Hideki Kondo. Pathogenetic roles of beet necrotic yellow vein virus RNA5 in the exacerbation of symptoms and yield reduction, development of scab-like symptoms, and Rz1-resistance breaking in sugar beet. *Plant Pathology* 70:219-232 (2021).
- 池谷美奈子・池谷 聡・岡崎和之. テンサイ直播栽培における黒根病に対するフルアジナム株元散布の防除効果. *てん菜研究会報* 61:27-28(2021).
- 伊藤賢治・小野寺鶴将・奈良部孝. ジャガイモシロシストセンチュウの緊急防除対策技術. *北農* 87:281-289 (2020)
- 塚本康貴・唐 星児. 転換畑での暗渠清掃用施設「集中管理孔」を利用したダイズならびに秋まきコムギへの地下灌漑 *農業農村工学会論文集 IDRE Journal* 311: II\_65-II\_73 (2020)
- K. Ishikura, N. Fueki, T. Suda, Y. Sugikawa, S. Tou. Estimation of nitrogen uptake and tiller number of winter wheat using a handheld optical sensor in Hokkaido, Japan. *Soil Science and Plant Nutrition* 66:828-836(2020).
- 笛木伸彦・酒井 治・渡辺祐志. 堆肥の施用時期と混和方法が、黒ボク土で栽培されたテンサイ (*Beta vulgaris* L.) の養分吸収量と収量に及ぼす影響 *北海道立総合研究機構農業試験場集報* 105:71-79 (2021)
- 八木哲生・酒井 治・松本武彦・三枝俊哉. 飼料用トウモロコシに対する乳牛ふん尿由来堆肥およびスラリーのリン酸肥効 *北海道立総合研究機構農業試験場集報* 105:89-95 (2021)

#### 2) 口頭発表

- 足利奈奈・林和希・大西志全・荒木和哉. 春まき小麦育種における少量製粉（ブラベンダージュニアテストミル）による製パン適性評価. *日本作物学会北海道談話会報* 61:40-41(2020.12).
- 大西志全・粕谷雅志・其田達也・木内均・神野裕信・佐藤優美・荒木和哉. 秋まき小麦新品種「北見95号」の収量変動要因. *日本作物学会北海道談話会報* 61:38-39(2020.12).
- 来嶋正朋, 神野裕信, 大西志全. 北海道における秋まきコムギのなまぐさ黒穂病抵抗性育種の可能性. *日本作物学会北海道談話会報* 61(2020.12).
- 大西志全・神谷岳洋・妻鹿良亮・藤原徹・辻本壽・佐藤優美・森田耕一. 葉面温度、イオノームおよび炭素同位体比により明らかになった北海道の小麦多収品種・系統の特徴. *日本育種学会第139回講演会*(2021.3).
- 道満 剛平, 来嶋 正朋, 神野 裕信, 大西 志全, 相馬 ちひろ, 鈴木 孝子. 北海道で発生したコムギなまぐさ黒穂 病抵抗性に関与する「Utah-100」由来 の6DS領域. *日本育種学会第139回講演会* (2021.3).
- 足利和紀. チモシーのアレロパシーが圃場条件でのリードカナリーグラスへの競合力に及ぼす影響. *日本草地学会新潟大会* (オンライン開催、2020.3.20-22).
- 小谷野茂和・田縁勝洋・平井剛・杉山裕・田澤暁子・笛木伸彦. 球肥大改善に向けた直播たまねぎの窒素分施肥. *日本土壌肥料学会北海道支部秋季支部大会* (2020.11)
- 藤田涼平. これからのでん粉原料用品種の特性. *第27回馬鈴しょ栽培講習会* (2021.2、Web講演)

- 池谷美奈子・池谷 聡・岡崎和之. てんさい直播栽培における黒根病に対するフルアジナム株元散布の防除効果. グリーンテクノバンク・てん菜研究会第18回技術研究発表会 (2020.7インターネット開催).
- 酒井 治・奥村 理・五十嵐俊成. 秋まき小麦の追肥時期が群落の受光体勢および収量に及ぼす影響. 日本土壌肥料学会北海道支部大会 (2020.11.25).
- 桑原 萌・酒井 治・唐 星児・木場稔信・五十嵐俊成. 北見周辺地域における農地の土壌化学性. 日本土壌肥料学会北海道支部大会 (2020.11.25).
- 田中一生・谷耕一・新井菊江・山田聡・五十嵐俊成. オホーツク地域における水稲品種「きたゆきもち」の胴割れ粒発生の要因解析. 日本作物学会第251回講演会 (ポスター発表、2021.3.30)

### 3) 専門雑誌記事

- 清水基滋. 北海道農業の技術・経営を支える「道総研農業研究本部」の8つの試験場⑤ 北見農業試験場. 農家の友11月号:4-6(2020).
- 大西志全. 道産小麦でスイーツを・・・北海道初の菓子用秋まき小麦品種「北見95号」. 北海道農業普及学会NEWSLETTER あぐりさろん21:Vol.76 (2020.8.21).
- 其田達也. 小麦新品種「北見95号」. 北農 第87巻2号:16-17(2020).
- 其田達也. 北海道初の菓子用秋まき小麦「北見95号」. ニューカントリー4月号:10-11(2020).
- 其田達也. お菓자에適した小麦新品種「北見95号」の特性. 農家の友7月号:56-57(2020).
- 池谷聡. なるほど新技術 てん菜 優れた耐病性持ち多収の「バラトン」. ニューカントリー5月号 54-55(2020.5).
- 池谷聡. 病気に強く糖量が多いてんさい新品種「バラトン」の特性. 『農家の友』8月号 公益社団法人北海道農業改良普及協会 (2020.8).
- 池谷聡. 高糖分で糖量が多いてんさい新品種「ボヌール」の特性. 『農家の友』8月号 公益社団法人北海道農業改良普及協会 (2020.8).
- 田澤暁子. 極早生たまねぎの出荷始前進に貢献できる品種の探索. 『農家の友』9月号 公益社団法人北海道農業改良普及協会 (2020.9).
- 田澤暁子. 端境期への出荷始め前進 道外向け4品種に可能性. ニューカントリー 12月号 58-59(2020.12).
- 足利和紀. チモシー新品種「センリョク」. デーリイマン2月号:68 (2021).
- 足利和紀. チモシーで恐らく世界初、栄養価改良された新品種の育成に成功. デーリイマン12月号:20-22 (2020).
- 足利和紀・佐藤公一・飯田憲司. チモシー新品種「北見35号」. 北農 第87巻第2号:137 (2020).
- 中村隆一・平井剛. 球肥大改善に向けた直播たまねぎの窒素分施肥. 北農87(2):170-173 (2020).
- 中村隆一・平井剛. 作物生理障害発生要因 大玉トマトの部分褐変症状果 (通称:ヤケド果). 北農87(2):170-173(2020).
- 佐藤公一. イチからわかる飼料作物の基本 その2 チモシー編. デーリイ・ジャパン 2月号 (2021)
- 藤田涼平・松永浩・品田博史. 北海道の作物管理第6章馬鈴しょ. ニューカントリー2020年秋期臨時増刊号 (2020.11).
- 池谷美奈子・池谷 聡・岡崎和之. てんさい直播栽培における黒根病の防除対策. ニューカントリー 67(11):50-51 (2020)
- 池谷美奈子. 2020年に向けてのてん菜病害防除について. てん菜だより第1号. 北海道農産協会 (2020.6).
- 池谷美奈子. たまねぎの灰色かび病、小菌核病. ファンタジスタ特設サイト 病害図鑑
- 小倉玲奈. 白花豆 疎植栽培の導入で省力・低コスト化を実現. ニューカントリー9月号54-55 (2020)



- 伊藤賢治・小野寺鶴将・奈良部孝. ジャガイモシロシストセンチュウの緊急防除対策技術. 北農87(4):21-29(2020).
- 小野寺鶴将. 燻蒸剤処理と捕獲作物でGp密度を検出限界以下へ-ジャガイモシロシストセンチュウの緊急防除. ニューカントリー2月号:56-57(2021).
- 唐 星児. 基本からわかる農業と環境問題 窒素施肥と地下水汚染. ニューカントリー 6月号 47-49 (2020).
- 酒井 治. 簡易更新法および完全更新法により更新した草地の生産性. 農家の友 8月号 74-76 (2020).
- 酒井 治. 異なる施工法により更新した草地の生産性. 牧草と園芸 1月号 1-4 (2021).
- 酒井 治. 異なる施工法により更新した草地の生産性. デーリィジャパン 1月号 20-23 (2021).
- 外山直樹. 特集 2021作物展望(畑作). ニューカントリー 1月号 北海道協同組合通信社 (2021. 1).
- 外山直樹. 除草剤の使用と中耕除草. 明日の豆作り P96-101 公益財団法人日本豆類協会 (2021. 2).
- 小山拓也. 豆類の病害虫. 明日の豆作り P102-124 公益財団法人日本豆類協会 (2021. 2).
- 氏家俊典. 特集 北海道の経営実態から明日を導こう 耕種経営の実態と分析ツール 『農家の友』4月号 公益社団法人北海道農業改良普及協会 (2021. 3).

#### 4) 著編書、資料

- 大西志全. 北海道の作物管理. ニューカントリー2020年秋期臨時増刊号. (株)北海道協同組合通信社 70-73(2020).
- 足利奈奈. 北海道の作物管理. ニューカントリー2020年秋期臨時増刊号. (株)北海道協同組合通信社 83-88(2020).
- 荒木和哉・大西志全・足利奈奈. 北海道の作物管理-第3章 小麦 70-99(2021. 11).
- 大西志全. 北海道の小麦づくり II 小麦品種の特性と栽培上の留意点. 令和2年度「北海道の小麦づくり」 47-63(2021. 2).
- 池谷 聡. 北海道の作物管理 第5章てん菜. ニューカントリー秋期臨時増刊号 151-173 (2020. 11).
- 藤田涼平. 北海道の作物管理(馬鈴しょ管理カレンダー). ニューカントリー2020年秋期臨時増刊号. (株)北海道協同組合通信社 176-176(2020).
- 品田博史. 北海道の作物管理(品種の特性と選択). ニューカントリー2020年秋期臨時増刊号. (株)北海道協同組合通信社 177-183(2020).
- 松永 浩. 北海道の作物管理(栽培管理), (収穫と貯蔵). ニューカントリー2020年秋期臨時増刊号. (株)北海道協同組合通信社 184-188, 194-197 (2020).
- 藤根統・小野寺鶴将. 北海道の作物管理-緑肥作物-土壌病害虫防除への利用. ニューカントリー2020年秋季臨時増刊号 218-221 (2020)
- 唐 星児. 北海道の小麦づくり III 良質小麦生産のための施肥および土壌管理. 令和2年北海道米麦改良協会講習会資料 65-96(2021).

#### 5) 新聞記事

- 其田達也. 道産小麦でスイーツを 秋まき小麦新品種「北見95号」. 農業共済新聞 (2020. 6. 3).
- 其田達也. 道産小麦でスイーツが作れる 菓子用薄力小麦「北見95号」. 日本農業新聞 (2021. 1. 22).
- 足利和紀. 質・量・強さの3拍子がそろった中生の晩のチモシー新品種「北見35号」. 農業共済新聞 (2020. 4. 22).
- 池谷 聡. 多収の高糖分てんさい新品種「ボヌール」. 農業共済新聞 (2020. 6).

- 田澤暁子. 極早生たまねぎの出荷前進と生産向上へ 有望4品種の特性. 農業共済新聞 (2020. 12).
- 池谷美奈子. てんさい直播栽培における黒根病の防除対策. 農業共済新聞 (2021. 2. 24).
- 小倉玲奈. 白花豆生産への疎植栽培導入で省力・低コスト化. 農業共済新聞 (2020. 10. 28).
- 小野寺鶴将. ジャガイモシストセンチュウの防除対策. 農業共済新聞 (2020. 5. 6).
- 外山直樹. 「検証 道農業～ばれいしょ、てんさい」. 日本農業新聞北海道支所 (2021. 1).

## 2 普及事項

### 1) 普及奨励事項

- (1) 馬鈴しょ新品種「北育28号」
- (2) てんさい新品種候補「KWS8K860」
- (3) サイレージ用とうもろこし新品種「KE4352」
- (4) サイレージ用とうもろこし新品種「SH14081」
- (5) サイレージ用とうもろこし新品種「KEB7421」

### 2) 普及推進事項

- (1) ペレニアルライグラス「KSP1403」

### 3) 指導参考事項

- (1) 早期出荷向けたまねぎの収穫前進技術
- (2) 飼料用トウモロコシの倒伏リスク低減技術
- (3) 北海道耕地土壌の理化学性(1959～2019年)と炭素貯留量(2016～2019年)
- (4) 令和2年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫
- (5) 除草剤
  - ①てんさい(移植)に対する除草剤「BCH-181 フロアブル」の実用化
  - ②大豆に対する除草剤「NP-66H フロアブル」の実用化
  - ③飼料用とうもろこしの播種後出芽前に対する除草剤「NP-66H フロアブル」の除草効果

### 4) 研究参考事項

- たまねぎ「すらりっぷ」、杉山裕、柳田大介、田中静幸、近藤友宏、大野幸宏、出願日－2017/2/15、出願番号－31822、出願公表日－2017/05/25、登録年月日－2020/08/14、登録番号－28028

## 3 品種登録・特許申請

- チモシー「センリョク」、佐藤公一、足利和紀、田中常喜、藤井弘毅、飯田憲司、岩淵慶、久保田美江子、竹田芳彦、竹村紘、出願日－2020/3/27、出願番号－34592、出願公表日－2020/9/29

## V 研究企画・場運営・広報活動

### 1 諸会議

会 議 名	開催時期	場 所	参 加 者
定例庁内会議	R 2. 4. 17	農試講堂	場員
定例庁内会議	R 2. 5. 15	農試講堂	場員
定例庁内会議	R 2. 6. 10	農試講堂	場員
新規課題場内検討会議	R 2. 6. 15	農試講堂	場員
定例庁内会議	R 2. 7. 1	農試講堂	場員
定例庁内会議	R 2. 8. 6	農試講堂	場員
定例庁内会議	R 2. 9. 2	農試講堂	場員
定例庁内会議	R 2.10. 7	農試講堂	場員
定例庁内会議	R 2.11.11	農試講堂	場員
定例庁内会議	R 2.12. 2	農試講堂	場員
現地委託試験成績検討会	R 2.12. 4	書面開催	場員、普及センター、関係農試、関係農業団体等
成績会議場内検討会	R 2.12.10	訓子府町公民館 多目的ホール	場員
定例庁内会議	R 3. 1. 8	農試会議室	場員
設計会議場内検討会	R 3. 2. 3,12	訓子府町公民館 多目的ホール	場員
定例庁内会議	R 3. 2. 4	農試講堂	場員
定例庁内会議	R 3. 3.13	農試講堂	場員
現地委託試験設計検討会	R 2. 3.13~15	書面開催	場員、普及センター、関係農試、関係農業団体等

### 2 各種委員会

#### 1) ほ場管理・施設等整備委員会

##### (1) 構成

委員長：江部成彦

事務局長：鈴木 剛(ほ場管理)、森 光治(施設等整備)

委員：松島英明、大西志全、池谷 聡、伊藤幸雄、藤田涼平、佐藤公一、酒井 治、小倉玲奈、田中一生

##### (2) 活動内容

###### ① 委員会の開催

第1回：令和3年1月27日

- 1) 令和3年度備品整備要望について
- 2) 令和4年度備品整備要望について
- 3) 圃場管理関係について
- 4) その他

## 2) 業務委員会

### (1) 構成

委員長：鈴木 剛

委員：伊藤幸雄、林 和希、田澤暁子、松永 浩、飯田憲司、木場稔信、佐々木太陽

### (2) 活動内容

#### ① 第1回委員会：令和2年4月16日

- 1) 業務委員会開催要領
- 2) 麦畑G（管理）業務体制
- 3) 室外契約職員体制
- 4) 月間作業予定
- 5) 週間作業予定
- 6) 作付計画
- 7) 今後の予定 など

#### ② 定例委員会：4月23日から10月22日まで原則として毎週木曜日に開催した。

- 1) 機械作業など週間作業計画および貨物車両使用計画
- 2) 室外契約職員週間作業計画

#### ③ 臨時委員会：令和2年12月17日

- 1) 令和2年度室外契約職員雇用実績
- 2) 令和3年度室外契約職員雇用計画
- 3) 令和3年度機械契約職員雇用計画

## 3) 図書・広報委員会

### (1) 構成

委員長：平井 剛

委員：杉本義則、佐藤優美、足利和紀（図書連絡委員兼務）、木場稔信

### (2) 活動内容

#### ① 第1回委員会：令和2年4月28日

- 1) 図書連絡委員の選任
- 2) 令和2年度定期刊行物購入計画の確認
- 3) 今年度業務内容の確認
- 4) その他（資料保管庫の利用、道総研OPACの運用開始）

#### ② 第2回委員会：令和2年11月16（電子メール）

- 1) 令和2年度定期刊行物購入計画の策定

#### ③ 新着図書の案内、刊行物の配布、蔵書調査に対する回答等は随時実施

## 4) システム委員会

### (1) 構成

委員長：五十嵐俊成

委員：木村祐介、木内均、品田博史、小野寺鶴将

### (2) 活動内容

委員会開催なし

## 5) バイテク共同実験室利用委員会

### (1) 構成

委員長：平井 剛

委員：松島英明、佐藤優美、平井 剛（兼任）、小倉玲奈

### (2) 活動内容

#### ① 第1回委員会：令和2年4月27日

- 1) 本年度の委員
- 2) 平成30年度報告
- 3) フロンガス点検（6, 9, 12, 3月）
- 4) 施設整備要望
- 5) その他

## 6) 定期作況報告委員会

### (1) 構成

委員長：江部成彦

事務局長：荒木和哉

気象担当：荒木和哉

とりまとめ：和崎俊文

委員：其田達也、林和希、飯田憲司、田澤暁子、和崎俊文、池谷聡、佐藤公一

### (2) 活動内容

#### ① 第1回委員会：令和2年4月10日

- 1) 定期作況調査報告実施要領
- 2) 定期作況報告の実施体制
- 3) 年間日程
- 4) 具体的作業日程と該当作物
- 5) 最終作況の判定基準

## 7) 公開デー実行委員会

### (1) 構成

委員長：江部成彦

事務局：森 光治、平井 剛

委員：其田達也、池谷 聡、横川愁斗、藤田涼平、佐藤優美、木場稔信、小野寺鶴将、田中一生、  
小山拓也

### (2) 活動内容

#### ① 第1回委員会：令和2年4月20日

- 1) 北見農業試験場公開デー2020実施方針について
- 2) イベント内容と班編制およびリーダーについて
- 3) 試食・クイズラリー景品用の馬鈴しょ作付について
- 4) 今後の進め方について

※ 5月11日付け農研本総第67号により農業研究本部における公開デーは中止とする旨の指示があったため、以降の委員会は開催しなかった。

## 8) オホーツク農業新技術セミナー実行委員会

### (1) 構成

委員長：五十嵐俊成

事務局：森光治、荒木和哉、鈴木剛、平井剛

実行委員：足利奈奈、佐藤公一、池谷聡、酒井治、田中一生、木村祐介

### (2) 活動内容

- ① 第1回実行委員会：令和2年8月13日
  - 1) 過年度報告
  - 2) 今年度開催案
  - 3) 分担確認
- ② 第2回実行委員会：令和3年1月4日
  - 1) 経過確認
  - 2) 開催案内の通知
  - 3) 通知対象の精査
  - 4) 開催方法の確認
  - 5) powerpointプレゼン動画作成方法確認
  - 6) その他準備
- ③ 第3回実行委員会：令和3年1月27日
  - 1) 経過報告
  - 2) 演題課題について
  - 3) 開催案内について
  - 4) その他確認事項
- ④ セミナー動画公開日：令和3年2月25日  
希望者に要旨送付、要旨のHP掲載

## 9) その他委員会

### (1) 公宅入居委員会：令和3年3月11日

- ① 出席者 森光治（場長指定）、鈴木剛（支部長）、酒井治（書記長）、  
江部成彦（弥生町内会）、木場稔信（若葉町内会）、木村祐介（事務局）
- ② 活動内容  
令和3年4月1日付け人事異動による公宅入居希望者の決定、  
公宅管理を行っているオホーツク総合振興局総務課へ報告

## 3 刊行印刷物

印刷物名	発行年月	頁	部数
該当なし			

## 4 広報活動

### 1) シンポジウム・セミナー等

名称	開催日	場所	内容	参加者
			新型コロナウイルス対策のため 開催実績なし	

## 2) マスコミ、広報誌等による報道

タイトル	報道機関	掲載・放送日
菓子用小麦「北見95号」誕生	北海道新聞北見地方版	R02.11.1

## 3) 展示会等への出展、公開デー

(1) 北見農試公開デー2020

新型コロナウイルス対策のため開催中止

## 5 見学受入れ

年月日	団体名	人数
新型コロナウイルス対策のため受け入れ中止		

## VI 技術指導および研修

### 1 研修生の受入れ

研修項目	団体・人数	研修期間	対応グループ
オホーツク地域における畑地の物理性改善事例調査	上川農業改良普及センター士別支所(3名)	R2. 11. 9	生産技術G 麦類畑作G 技術普及室
令和2年度普及指導員指導力養成研修(スマート農業技術)	網走農業改良普及センター清里支所(1名) 網走農業改良普及センター紋別支所(1名) 網走農業改良普及センター遠軽支所(1名)	R3. 1. 27 ～1. 28	技術普及室

### 2 講師派遣

研修会および講習会	主催者	開催日	演題	派遣者
第27回馬鈴しょ栽培講習会	(公社) 北海道農産基金協会	R3. 2. 24～	これからのでん粉原料用品種 の特性	藤田涼平
令和2年度オホーツク種子審査研修会	オホーツク総合振興局	R2. 7. 1	種子審査の基礎	外山直樹
オホーツク農村ツーリズム農畜産業防疫対策研修会	オホーツク農村ツーリズム連携会議・北海道	R2. 8. 20	「植物防疫と病害虫のリスクを知ろう」	小山拓也
農業・農村生活懇話会「秋の研修会」	北海道農業・農村生活懇話会	R. 2. 10. 23	普及活動における経営支援～支援の視点と手法～	氏家俊典
高品質てん菜作り講習会	北海道農産協会	R3. 2 (web 動画公開))	2021年に向けてのてんさい 病害防除	池谷美奈子
網走農業改良普及センター園芸部会(第3回)	網走農業改良普及センター	R3. 1. 29	たまねぎ灰色腐敗病の防除 対策 ヒメダイコンバエの被害と 同定方法	小倉玲奈 佐々木太陽



### 3 職員研修

氏名	研修項目	場所	期間
佐藤優美	新規採用職員研修	道総研プラザ	R2. 4. 8～R2. 4. 10
和崎俊文	新規採用職員研修	道総研プラザ	R2. 4. 8～R2. 4. 10
桑原 萌	新規採用職員研修	道総研プラザ	R2. 4. 8～R2. 4. 10
横川愁斗	新規採用職員研修	道総研プラザ	R2. 4. 8～R2. 4. 10
高橋浩一	刈払い機取扱作業安全衛生教育	オホーツク木のプラザ	R2. 6. 11
森 光治	新任課長補佐級研修	北海道自治労会館	R2. 8. 20～R2. 8. 21
佐々木太陽	採用3年目研修	中央水産試験場	R2. 9. 2～R2. 9. 3
藤田涼平	新任主査級研修	道総研プラザ	R2. 9. 30～R2. 10. 1
横川愁斗	トラクター基本操作研修	農業大学校	R2. 10. 13～R2. 10. 15
森 光治	ハラスメント研修	道総研プラザ	R2. 10. 20
足利奈奈	ハラスメント研修	道総研プラザ	R2. 10. 20
横川愁斗	車両系建設機械運転技能講習	(株)技術能力開発センター北見 見教習所	R2. 11. 12～R2. 11. 13
森 光治	甲種防火管理新規講習	北見市端野町公民館	R2. 11. 19～R2. 11. 20
横川愁斗	携帯用丸のこ等取扱作業安全衛生教育	(株)北友照会研修部技術能力 開発研究会	R3. 2. 2
横川愁斗	自由研削といしの取替等特別教育	北見経済センター	R3. 2. 3
横川愁斗	玉掛け技能講習	(株)技術能力開発センター北 見教習所	R3. 3. 1～R3. 3. 3
佐藤優美	農研本部新規採用研究職員研修	オンライン開催	R3. 3. 18
和崎俊文	農研本部新規採用研究職員研修	オンライン開催	R3. 3. 18
桑原 萌	農研本部新規採用研究職員研修	オンライン開催	R3. 3. 18
横川愁斗	クレーン等の業務に係る特別教育	(株)技術能力開発センター 北見教習所	R3. 3. 29～R3. 3. 30
田中一生	専門研修Ⅱ	京都大学大学院農学研究科	R3. 3. 29～R3. 3. 30
外山直樹・ 小山拓也	令和2年度普及指導員指導力養成 研修(研究と普及の連携強化研修)	オンライン開催 道庁7階	R2. 9. 15～16

### 4 職場研修

研修会および講習会	講師	開催日
ハラスメントについて	総務課長 森光治	R2. 6. 1
交通安全について	総務課長 森光治	〃
農作業の安全について	研究主幹 鈴木剛	〃
病虫害汚染防止について	場 長 清水基滋	〃
契約職員に対する作業指示について	研究部長 江部成彦	〃
てん菜そう根病について	名古屋大学生命農学研究科准教授 千葉壮太郎	R2. 10. 1

### 5 国際交流

交流事業名	派遣内容	派遣職員	期間
該当無し			

## Ⅶ その他

### 1 技術体系化チーム

技術体系化チームとしての取り組みはなかった。

### 2 オホーツク地域農業支援会議プロジェクトチーム（技術普及室・研究部）

オホーツク地域農業支援会議プロジェクトチームで取り組んだ課題は無かった。

オホーツク管内の各関係機関より令和2年度地域課題・農業試験研究課題ニーズとして8課題の要望があった。うち、要望の具体的内容把握のため、4カ所で現地聞き取り調査を実施した。

現地聞き取り調査：11/10 JA斜里町、JA清里町、オホーツク農協連

11/17 滝上町

### 3 表彰・受賞

(1) 第8回プラチナ大賞 優秀賞・技術革新賞（令和2年10月22日）

「冬の寒さを利用して人と環境に優しい持続可能な農業を実現」

農業・食品産業技術総合研究機構、北海道立総合研究機構、きたみらい農業協同組合、十勝農業協同組合連合会

(2) 令和2年北農賞（第81回）（令和2年12月27日）

報文「ジャガイモシロシストセンチュウの緊急防除対策技術」

伊藤賢治・小野寺鶴将・奈良部孝

## 4 行事

月 日	行 事 名	月 日	行 事 名
4月 1日	辞令交付式(新規採用)	25日	オホーツク総合振興局海外悪性伝染病警戒本部幹事会
3日	職場研修(北見農試新規採用職員研修)	26日	(書面開催)てん菜輸入品種検定試験及び育成系統連絡試験成績検討会
10日	道総研災害対応訓練	12月 1日	(Web開催)研究部長会議
28日	オホーツク総合振興局海外悪性伝染病警戒本部幹事会	1-2日	(Web開催)飼料作物品種比較試験成績検討会
30日	農研本部場長会議	4日	(書面開催)北見農試現地委託試験成績検討会
6月 1日	職場研修(ほ場汚染防止・労働安全等)	10日	場内成績検討会議
6月 11日	(中止)研究本部長・場長会議	17日	第81回北農賞表彰状等授与式
15日	場内新規課題検討会議	22日	防火訓練
23日	場内見学案内リハーサル	1月 4日	仕事始め
7月 2日	訓子府町第3回まちづくり推進会議	15-22日	(Web開催)北海道農業試験会議成績会議
2-3日	新規課題検討会議(畜産部会)	21日	(書面開催)オホーツク総合振興局海外悪性伝染病警戒本部幹事会
6-9日	新規課題検討会議	26日	(web開催)農研本部場長会議
14日	職場研修(コンプライアンス研修)	2月 2日	(web開催)農研本部臨時場長会議
17日	試験ほ場適正使用確認状況調査	3日	場内設計検討会議
20日	オホーツク地域農業気象連絡協議会	10日	(書面開催)オホーツク総合振興局海外悪性伝染病警戒本部幹事会
22日	予備監査	12日	場内設計検討会議
31日	農研本部臨時場長会議	17日	(書面開催)NATEC定期総会・(中止)研究交流会
31日	研究本部長・場長会議	18日	(web開催)農業新技術発表会(全道版)
8月 6日	(中止)北見農業試験場公開デー	19日	設計会議 てん菜分科会
31日	設計会議 秋まき小麦分科会	22日	(書面開催)オホーツク地域農業技術支援会議・五者会議
9月3-4日	NATEC研究情報交換会・現地視察	25日	(web開催)オホーツク農業新技術セミナー
7日	研究開発能力向上研修(web開催)	3月8-12日	(web開催)北海道農業試験会議設計会議
29日	農研本部場長会議	9日	オホーツク地域農業気象連絡協議会
29日	全国場所長会北海道ブロック会議	11日	(web開催)研究本部長・場長会議
10月 1日	テンサイそう根病研修会	12日	(書面開催)オホーツク地域農業支援会議・地域関係者会議
8-9日	研究本部長・場長会議	15日	(web開催)北海道農業試験研究推進会議本会議
15-16日	職場研修(倫理研修)	22日	農研本部場長会議
21日	職場研修(倫理研修)	31日	辞令交付式・発令通知式(退職・異動)
30日	作況報告会		
11月 1日	訓子府町開町百周年記念式典		
4日	農研本部場長会議		
10日	理事長来場		
12日	訓子府町町づくり推進会議		
12日	(書面開催)北見工大社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議		
20日	(中止)花・野菜部会成績事前検討会		
24日	(書面開催)道産小麦品質向上プロジェクト成績検討会		
25日	(書面開催)馬鈴しょ輸入品種選定等受託試験及び育成系統連絡試験成績検討会		

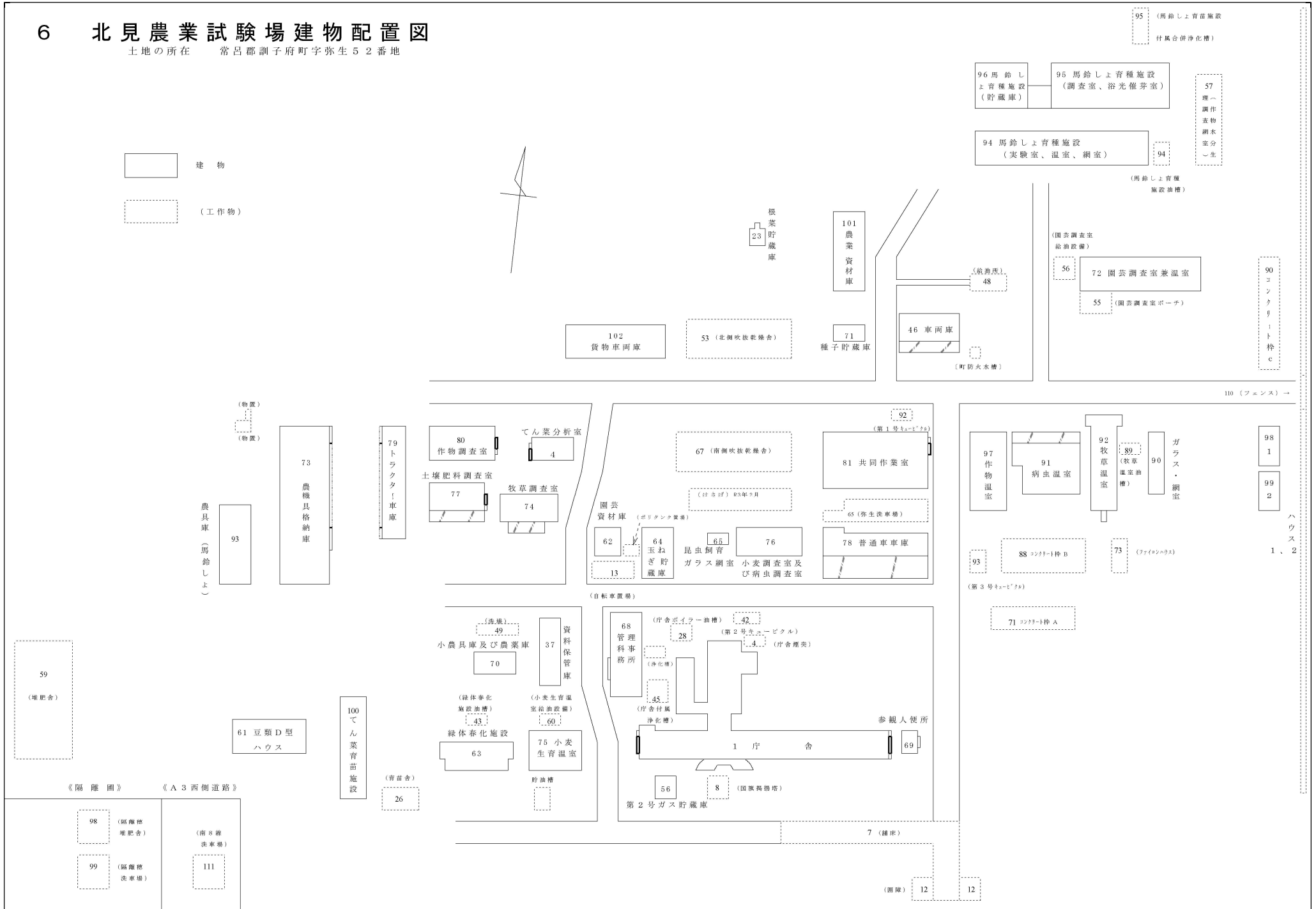
## 5 自己点検への対応

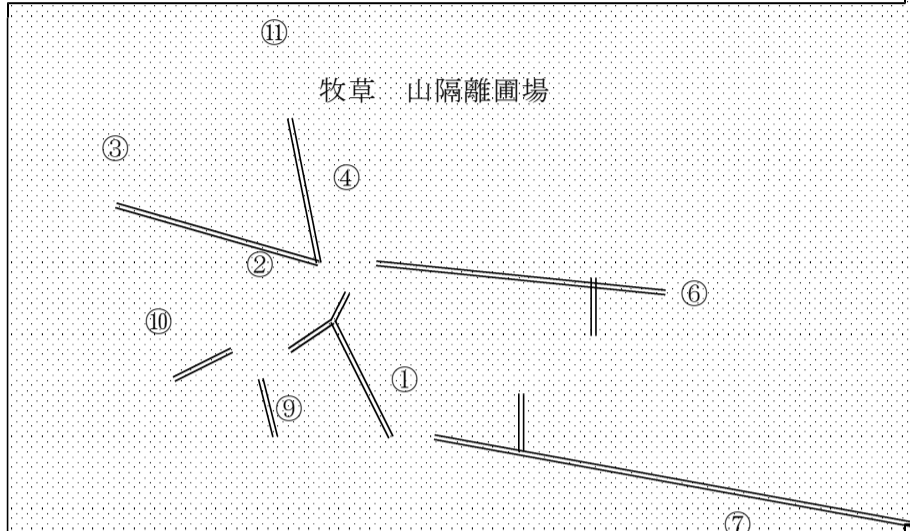
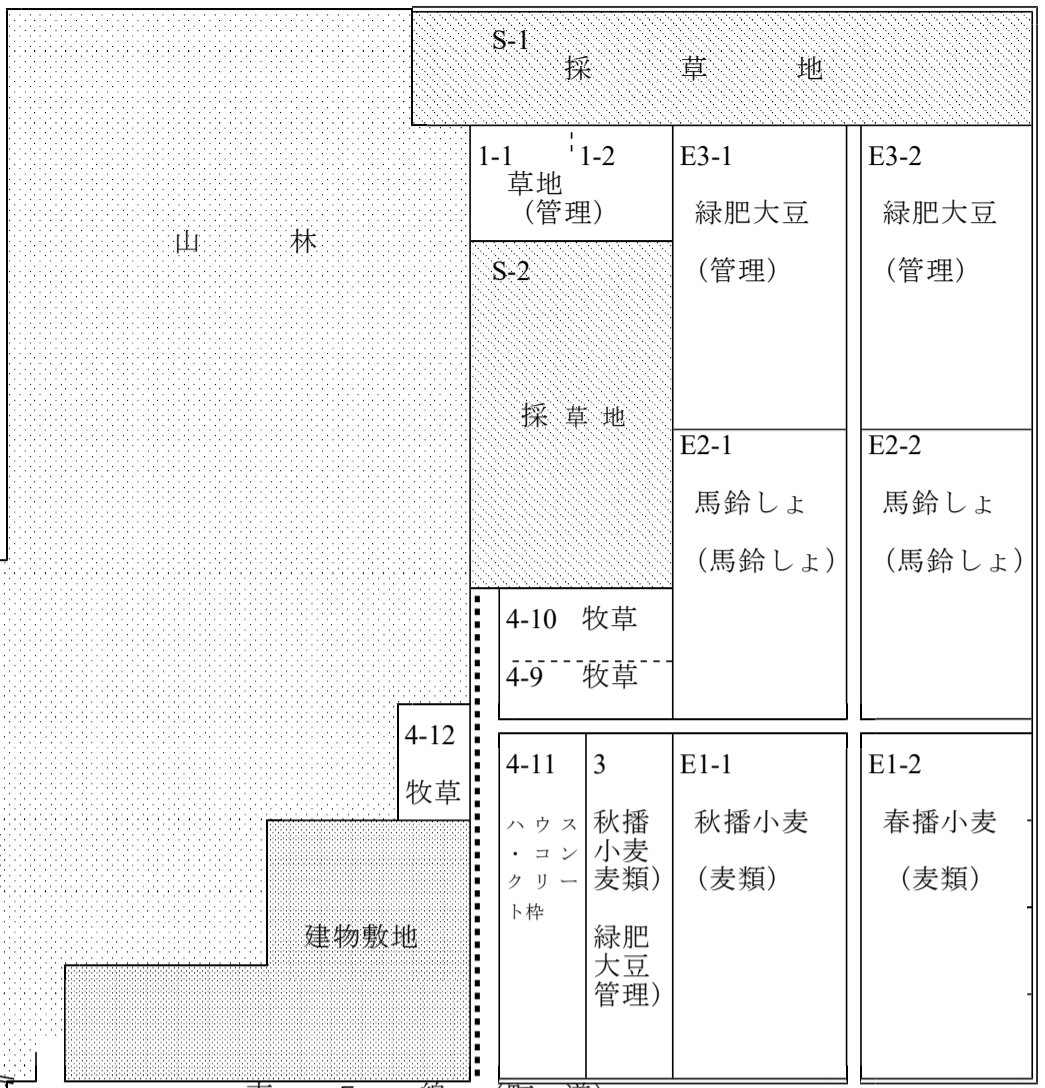
事 項	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
研究成果発表会の開催件数	2	0	2	1	1	3	2	1(web)
研究成果発表会への延べ参加人数	247	0	496	169	136	673	325	938(視聴)
研究会等の開催件数	4	0	0	1	1	1	0	0
研究会等への延べ参加人数	650	0	0	39	97	60	0	—
発表会・展示会等への出展件数	1	0	2	1	2	3	0	1
研究報告書の発行状況	6	4	4	2	4	—	3	0
技術資料の発行状況	1	1	1	4	1	—	2	2
学会やシンポジウム等での発表件数	47	24	36	33	20	25	24	10
学術誌や専門誌への投稿論文数	18	17	10	16	11	9	9	5
普及組織との連絡会議等開催件数	40	59	9	9	10	5	3	4
技術相談件数	88	43	66	85	89	85	76	84
技術指導件数	175	148	78	56	55	53	59	55
研究成果の公表・活用状況(雑誌)	32	16	15	31	30	17	20	22
研究成果の公表・活用状況(書籍)	1	6	1	2	2	1	3	9
研究成果の公表・活用状況(新聞)	4	8	2	7	3	5	3	8
技術審査件数	2	1	1	1	0	1	0	0
依頼試験実施件数	0	0	0	0	0	0	0	0
試験機器等の設備の提供件数	0	0	0	0	0	0	0	0
利用者意見把握調査の回答数	182	48	94	180	115	145	55	—
研修会・講習会等の開催件数	2	14	0	2	2	3	1	1
研修会・講習会等の延べ参加者数	11+?	1,200	0	520	308	40	100	27
研修者の延べ受入人数	16	10	2	0	0	28	8	2
特許等の出願件数	1	0	0	1	1	3	2	2
公開デー等の開催件数	1	1	1	1	1	1	1	0
視察者・見学者の受入件数	61	33	26	37	38	25	35	0
視察者・見学者の延べ人数	855	512	371	603	648	359	575	—
学会等役員・委員等件数	11	12	14	17	9	12	9	12
国際協力事業等への協力件数	0	0	0	2	0	0	2	0
道関係部との連絡会議等の開催件数	21	25	37	28	20	6	10	0
市町村との意見交換等の開催件数	13	3	16	5	8	2	0	0
外部機関等との人材交流件数	0	0	0	0	0	0	0	0
国内研修Ⅱ(大学等)の派遣件数	0	0	0	0	0	0	0	0
国内研修Ⅱ(研究機関等)の派遣件数	0	0	0	0	0	1	0	0
国内研修Ⅱ(企業等)の派遣件数	0	0	0	0	0	0	0	0
国内研修Ⅱ(学会等)の派遣件数	7	6	6	3	4	8	6	0
国内研修Ⅱ(シンポジウム等)の派遣件数	0	0	0	0	1	0	1	0
企業等への訪問件数	35	20	18	22	18	29	38	2
関係団体等との意見交換等の開催件数	29	25	38	24	29	43	9	3

# 6 北見農業試験場建物配置図

土地の所在 常呂郡訓子府町字弥生52番地

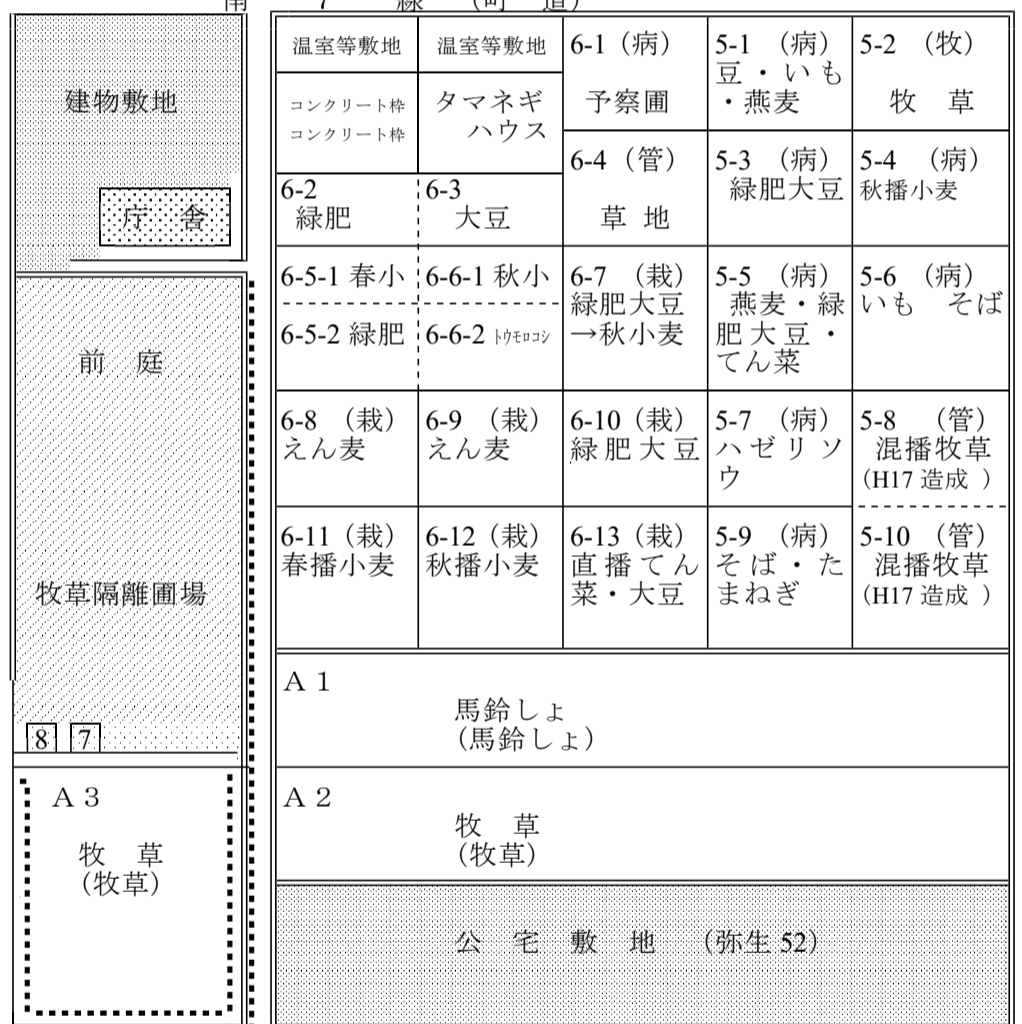
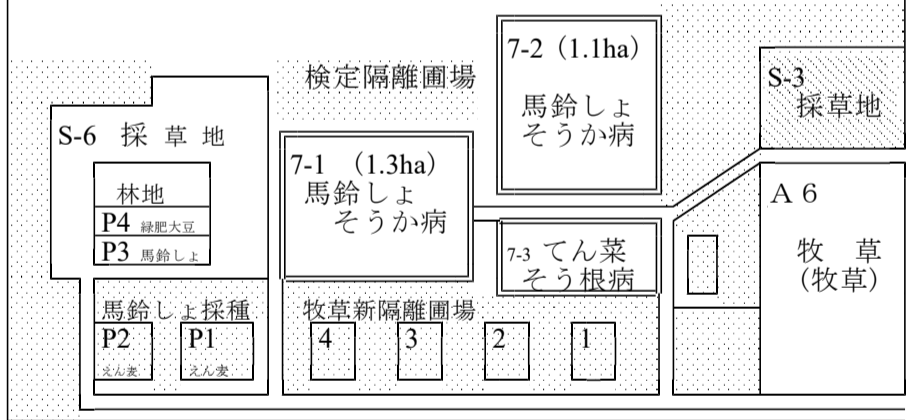
建物  
 (工作物)





\*馬鈴しょ採種圃(P-1~4)の輪作順は  
①ヘイオーツ → ②馬鈴しょ → ③普通えん麦 → ④緑肥大豆

そうか病、そう根病



至置戸 南 8 線 ( 道 道 ) 正門 至北見

B 6-1 トウモロコシ (牧草)	B 5 てん菜	B 4 緑肥ヘイ オーツ	B 3 春播小麦	B 2 豆類	B 1 緑肥トウ モロコシ
B6-2 草地					
B6-3 トウモロコシ・ えん麦 (牧草)					

A 5 混播草地 (管理) トールフェスク+ 白クローバ (H20 造成)	A 4 混播草地 (管理) トールフェスク+ 白クローバ (H20 造成)	D 3 秋播小麦	D 2 秋播小麦	D 1 緑肥そば	林地 (沢) S-4 採草地
--	--	-------------	-------------	-------------	-------------------------

C 6 緑肥そば (管理)	C 5 緑肥そば (管理)	C 4 緑肥大豆 (管理)	C 3 緑肥普通 えん麦 (管理)	C 2 緑肥ひま わり (管理)	C 1 緑肥ひま わり (管理)
---------------------	---------------------	---------------------	----------------------------	---------------------------	---------------------------



至置戸 旧ふるさと銀河線 至北見

北海道立総合研究機構 北見農業試験場年報 令和2年度

---

令和3年6月発行

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構  
農業研究本部 北見農業試験場

〒099-1496 北海道常呂郡訓子府町字弥生52番地

電話(代表) (0157) 47-2146

ファックス (0157) 47-2774

HPアドレス <http://www.hro.or.jp/list/agricultural/research/kitami/index.html>

---